

XII 地域連携

本章は「平成 27 年度 教育実践総合センター活動報告書」を引用した。

1 はじめに

茨城大学教育学部附属教育実践総合センター長
小川 哲哉

来年度から茨城大学の教員養成教育は大きく様変わりすることになります。先ず大学院の教育学研究科に「教育実践高度化専攻（教職大学院）」が開設され、高度な教員養成の取り組みが始まります。さらに、「全学教職センター」が設置され、総合大学の強みを生かした教員養成教育の支援を開始します。こうした諸々の改革により、本学の教員養成教育はより実践的な側面が強化されることとなります。そのため教育学部附属施設である教育実践総合センターもその役割を大きく変えていかざるを得ないでしょう。

本年度は、こうした大改革前の準備期間としての役割が大きかったような気がします。特に全学教職センターの設置にむけたワーキンググループでは、各学部の教職課程担当の先生方との意見交換を通して従来とは異なる新たな教員養成教育の課題も明らかになりました。そのため、これからは全学的な視野に立った教員養成教育の諸問題にも配慮した多様な実践的課題に 대응していく必要が出てきました。ただ、そうした多様な課題に 대응していく際にも、本センターの中心組織である「教員養成支援部門」と「地域連携教育支援部門」の二部門が果たす役割は今後も重要だと思えますし、これまでに培ってきたノウハウを生かした全学的な取り組みが求められることになるでしょう。

さて本年度も「教員養成支援部門」では、教育実習の学生たちに対する事前・事中・事後の教育支援活動をきめ細やかに行ってきました。そのためには、これまで以上に教育実習委員会との連携は欠かせませんでした。とりわけ附属学校園をはじめとする教育実習校とは、様々な面で連絡・調整を行って来ました。さらに講習会や研修会の開催も充実させてきました。中でも ICT 教育の講習会の、タブレット端末を使った CM 作品づくりでは、参加者のアクティブ・ラーニング的活動を深めることができました。また優秀教員（「ティーチャー・オブ・ティーチャーズ」）の方の模擬授業研修会では、ALT と連携した小学校の外国語活動のユニークな授業実践を行うことができました。参加学生たちにも好評価であったようです。また「地域教育支援部門」では、例年通り「学生ボランティア活動」に数多くの学生を参加させることができました。長年にわたる水戸市教育委員会との連携事業には、多数の学生の参加があり、学校や地域社会において普段は経験できない貴重な体験の機会を得ることができたようです。こうした地域連携教育活動は、全学教職センターに移行しても重要な活動であることに変わりありません。全学の教員希望の学生たちに是非とも充実したボランティア活動を体験して頂きたいです。さらに今年も教育学部教員による地域教育活動や、共同研究への支援活動は充実しておりました。

上述したような様々な活動を本センターは実施してまいりました。来年度は、教育実践総合センターの一部の機能を残しつつ、全学教職センターも部分的な活動を開始します。1年間だけ二つのセンターが機能する予定ですが、本センターのこれまでの機能の質を維持しながら、教員養成教育に対する新しいニーズに 대응していくように努力いたします。

2 教員養成支援部門

2-1 今年度の部門における活動概要

教員養成支援部門では、「教育実習の支援」「模擬授業室の運用を通じた教員養成教育の支援」を柱として活動に取り組んでいます。まずはそれぞれの概要を報告します。

まず「教育実習の支援」についてですが、当学部における教育実習は、1年次から4年次までの各年次を通じた積み上げ型のカリキュラムとなっています。1年次・2年次はいわゆる「事前指導」としての講義や学校参観を中心とした内容で構成しています。3年次・4年次では学校現場における本格的な実習を行います。これらは、学部の委員会組織の一つである「教育実習委員会」が中心となって企画・運営されています。同委員会は学部内の各教室から選出された1名ずつの教員と、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校、附属幼稚園から選出された1名ずつの委員（実習主任）、4附属の校長が主なメンバーとなりますが、センター専任教員も委員として所属しており、主に1年次・2年次における授業（実習）の企画・運営・実施と、3年次・4年次の実習に対する事前事後指導の企画・運営、実習校との連絡調整などを担当しています。

本学では、中央教育審議会・教員の資質能力向上特別部会の答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成 25 年8月）における、教員養成段階における教育実習の在り方にかかわる内容を受け止めながら、教育実習カリキュラムの改革を進めています。当部門はその検討、改革実行の中心に立って、ますます充実した取り組みを重ねていく必要があるものと考えます。

次に「模擬授業室の運用を通じた教員養成教育の支援」についてですが、「模擬授業室」は学校における授業を模擬的に実践するための教室として、小学校・中学校の一般教室の構造をイメージ・再現した教室です。教育法などの授業において模擬授業形式の演習などに利用されています。また、授業時以外にも随時開放していますので、教育実習の準備・練習、教員採用試験に対する準備等に取り組む学生の姿も見られます。当室を会場とする研修会・講習会等を実施することができました。

また、模擬授業室と内部で繋がり、隣室として設置した「教材教具作成室」は、その機能をさらに充実させるため、教材作成用のパソコン・プリンターや、各種の文房具などを常設・常備しています。今後は、模擬授業や教材作成において有効な資料を揃えるなど、学部図書室とも連携しながら、なお一層の充実と活用促進に向けて取り組みを進めていきたいと思っております。

以上、当部門における主な取り組みの概要を述べました。次頁より、上記の二つの柱、本年度の教育実習の実施状況およびそれらに対する支援の内容、模擬授業室の状況と本年度における活用状況などを具体的に報告します。

（文責：部門担当 昌子佳広）

2-2 平成 27 年度 教育実習の実施状況

本学部における教育実習カリキュラムは以下の通りとなっている。

履修年次	実習科目名	対象課程・コース，必修／選択の別
1 年次	教育実地研究入門Ⅰ *	全課程共通，選択科目
2 年次	教育実地研究入門Ⅱ * 養護教育実地研究入門 養護実践研究Ⅰ	全課程共通，必修科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目
3 年次	初等／中等教育実地研究Ⅰ * 幼児教育実地研究Ⅰ * 養護教育実地研究Ⅰ・Ⅱ 養護実践研究Ⅱ	学校教育教員養成課程，必修科目 全課程共通，選択科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目
4 年次	初等／中等教育実地研究Ⅱ * 中等教育実地研究Ⅲ (*) 中等教育実地研究Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ * 幼児教育実地研究Ⅱ (*) 特別支援教育実地研究 特別支援教育実地研究 養護教育実地研究Ⅲ 養護実践研究Ⅲ	学校教育教員養成課程，必修科目 学校教育教員養成課程，選択科目 養護教諭養成課程・情報文化課程 ・人間環境教育課程課程，選択科目 全課程共通，選択科目 特別支援教育コース，必修科目 全課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目

このほか，他学部向けの中学校，高等学校での教育実習を実施している。

このうち，1 年次対象選択科目「教育実地研究入門Ⅰ」，2 年次対象必修科目「教育実地研究入門」については，センター専任教員が中心となって企画および実施・運営にあたった。3 年次および 4 年次の各科目（実習）については，それぞれの実習運営を統括する教育実習委員会内の各小委員会と連携しながら事前事後指導を企画・立案し，関係者との連絡・調整等にあたった。これらセンター教員が企画・運営・指導等にかかわった実習（上記表中*を中心とする）について，次項よりそれぞれの概要と実施状況を報告する。

① 教育実地研究入門 I

学部における教育実習全体の導入として位置づけられる授業（実習）である。ねらいを、

- 教師のもつ使命感や教育的愛情について理解することができる。
- 児童生徒の個別的な違いや発達段階ごとの特徴などを把握することができる。
- 授業やその他の教育活動における教師のはたらきかけのあり方について考えを深めることができる。

の3点に設定し、附属小学校および附属中学校における学校（授業）参観を中心的な活動として行った。

4月当初に教育実習カリキュラム全体のガイダンスを行うとともに、本授業の概要（ねらい、内容、日程）を説明し、履修登録を受け付けた。

授業は集中方式で7月下旬にまず2回実施し、夏休み期間中を利用して、自分の母校（小学校あるいは中学校）を訪問し、施設等を見学させていただくことと、恩師（お世話になった先生）に面会しインタビューをさせていただくという、2つの課題を提示した。これは、学校という場所（空間）、施設・設備などを再認識（確認）するとともに、小学生・中学生だった自分自身の姿、当時の思い、...などを想起し、学校教育と自分自身との関わりについて考えること、また、先生という仕事に携わる人の思い・考えなどを知り、教師のもつ使命感や職業意識などについて考えを深めることをねらいとして、今年度より新たに設定したものである。学生は夏休み期間の各自の帰省等の予定にあわせ、各個人で母校および恩師に連絡をとり、依頼をして、見学及びインタビューを実施し、その内容をレポートにまとめて提出した。

9月には、各選修・コース・課程ごとに設定した期日に、附属小学校および附属中学校を訪問し、授業（先輩である教育実習生の授業を含む）参観や児童・生徒の観察を行い、参観・観察の内容に基づく討議を行った。日程や内容については、附属小中学校と連絡をとりながら企画を進め、学生向けの参観てびきや記録用のワークシートなどを作成し、実際の指導は、各選修等ごとに、各教室から選出された教員が行った。

そして、11月、12月には、3年次および4年次の教育実習事後指導に参加させ、先輩の教育実習に関わる報告を聞くことにより、来るべき自分自身の教育実習に対する意欲喚起と課題把握に繋がるようにした。

② 教育実地研究入門 II

3年次以降における本格的な教育実習の事前指導と位置づけられる授業（実習）である。ねらいを、

- 学校における施設・設備の状況や、児童生徒の実態等をふまえた学校経営のあり方な

どについて実情を理解できる。

- 教師という仕事のあり方，教師の使命感や教育的愛情などについて理解できる。
- 授業参観や教育諸活動への参加を通して児童生徒とふれ合い，関わり方の基本を身につける。
- マナーや身だしなみなど教師・大人として必要な社会性を培う。

の4点に設定し，教師のあり方や学校における仕事など，教職についての基本的な理解を得るための講義と，水戸市内の公立小中学校の教育活動参観・体験によって構成した。講義を通して，児童生徒の見方，授業の進め方，校務のあり方などについて理解し，学校現場における実地体験を通し，教職および学校教育への意識を高めていくようにした。

学校現場での実地体験は，水曜日の午後を使って年間4回実施した。今年度も水戸市内の全ての小中学校に協力を依頼し，ほぼ全校の承諾を得た。

授業前回を通じて，2回（2週）の講義を行い，その次の回に学校を訪問するという活動（実習）を1セットとして，これを前期（6月・7月）に2セット，後期（10月・11月）に2セット行うという形をとった。これによって，講義を通して学んだ内容を基に，学校訪問における参観・体験の観点を明確にすることができた。ただし，学校における参観・体験の具体的な内容は各学校の計画にある程度任せなければならないので，講義との関わりが十分に確保されていたかどうかには課題は残る。一方，訪問の翌週の授業では，参観した事実をもとに小グループで話し合い，ふりかえりを行う演習形式の時間をとることによって，学校における実地体験から得られた学びを，受講者間で共有し合うことができた。

授業の計画及び運営，また訪問学校との連絡・調整はセンター専任教員が行い，学校訪問の際は各教室から選出された教員が引率・指導を行った。学校参観を通してまとめるレポートと，講義内容に対する総括レポートによって成績を評価した。

③ 3年次・4年次における教育実習 3年次・4年次では，課程・コースごとに必修あるいは選択として，幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校の各校種における教育実習を行うが，これらに対するセンター専任教員の関わり方としては以下の諸点がある。

- ・事前事後指導の企画・運営，連絡・調整
- ・「教育実習連絡打合せ会」および「教育実習運営協議会」への出席
- ・教育実習期間における諸相談（模擬授業室の開放・提供を含む）
- ・授業記録VTR撮影のコーディネートと整理・保管

事前事後指導については，教育実習委員会内の実習種別（基本実習，協力校実習，帰省実習，養護実習）ごとの各小委員会と連携しながら内容を検討し，必要に応じて外部機関との連絡・調整を図って実施した。事後指導は，全体での指導（講話等）を行った後，選修・コース等の単位に分散して学習会（報告，討議）を行うという流れとしている。分散会（学習

会)での内容の大枠は共通に決め、詳細は各選修等ごとの指導を担当する教員と学生との合議によって内容が検討され実施された。また、前述の通り1年次の「教育実地研究入門Ⅰ」の授業の一部を兼ねており、1年次生に対する報告、1年次生からの質疑と応答といった内容も、各選修等ごとの企画の中に含まれている。

大学院教育学研究科所属学生の「免許取得プログラム」による教育実習(帰省実習)対象学生(院生)を集めての学習会はセンターで担当した。

また、各実習種別ごとの事後指導レポートは選修等ごとの担当者が目を通した後にセンターに送られ、書かれた内容、特に「実習中に抱えた悩み」「実習中に起きたトラブル」「大学および実習校の指導体制等に関する要望・意見」などを整理して記録に残している。

④ 「教育実習運営連絡打合せ会」・「教育実習運営協議会」

「教育実習連絡打合せ会」および「教育実習運営協議会」は、教育実習を行う附属学校園、県内公立小中学校の先生方(校長先生や、実習主任の先生)に出席していただき、大学側からの依頼・説明や、実習運営および実施に関する協議・反省等を行う場として、実習が始まる以前の5月(連絡打合せ会)と、終了後の12月(運営協議会)に開催しているものである。大学側は学部長をはじめ実習にかかわる各セクションの関係教員が出席し、また他学部の教育実習担当教員も出席する。茨城県教育委員会にもオブザーバーとしての出席を依頼し、陪席をいただいている。

本年度は、附属学校園を含めて80校(小学校28校、中学校52校)で教育実習が行われた。全課程において行われる選択の帰省(母校)実習はこの数に含まれていないので、それを含めるとおよそ130校にご協力をいただいたこととなる。

センター教員はこの2回の会議に出席し、特に5月開催の会議において実習における指導内容や評価基準などについての説明を担当した。

⑤ その他

教育実習期間(直前時期を含む)においては、学生が実習において担当する教科指導(授業)の構想(教材研究、授業計画)を中心に、実習全般にわたる諸相談への対応を行った。また、実習期間中にも「模擬授業室」を開放し、授業実習の準備・練習、教材・資料等の作成などに取り組めるようにした。

2-3 模擬授業室の活用状況

(1) 本年度における使用状況

本年度における模擬授業室の使用状況は以下の通りである。

平成 27 年度 模擬授業室使用状況（申し込みのあったもの）

月	使用者（代表）		その他	その他の内容	合計
	教員	学生			
4	23	5	2	協力教員会，発明クラブ説明会	30
5	23	22	1	運営委員会	46
6	35	9	7	内留生の公開自主研修会など	51
7	43	23	2	附属学校打合せ会など	68
8	14	23	0		37
9	10	36	2	附属学校打合せ会など	48
10	14	12	4	附属学校打合せ会，施設見学など	30
11	25	24	0		49
12	41	20	8	内留生の公開自主研修会，ICT 活用講習会	69
1	25	16	6	教員研修会	47
2	24	6	3	教員採用前研修会	33
3	15	5	1	運営委員会	21
計	292	201	36		529

*数字は件数

まず，全体の合計件数は昨年度より 168 件増加した。（前年度は 361 件。）使用者別には，教員による授業やゼミナールによる使用が 100 件程度，学生の自主使用が 70 件程度増加している。模擬授業室を設置して以来，学部の各教員が担当する授業（教科教育法など）で，模擬授業形式の演習などを取り入れることが増えている。単なる講義ばかりでなく，実践的な指導，アクティブラーニングを重視する傾向にあり，それが模擬授業室という環境を得てますます活発化しているようである。そのようにして模擬授業という形での演習・発表を控えて，学生もその準備のための，言わば「模擬授業の模擬授業」を行うことも増えており，上記のような結果に繋がったものと見られる。大学の授業においてもアクティブラーニングの活性化が求められる現状において，教育学部における模擬授業室はその実践のための空間としてますます重要な施設になっていくものと思われる。

(2) 研修会・講習会等の開催

前頁表中にも述べた通り，センター自体やセンターが関わって実施した企画・行事等においても使用した。以下に簡単に紹介する。

- ・ I C T 活用講習会 … 学内の教員・学生を対象として， I C T 教育機器の使用方法に関わる講習や，授業等における活用の方法についての研修を行った。今年度は情報文化教室の小林祐紀准教授に講師としての参画を依頼した。小林准教授は前年度まで小学校の現場に勤務しており， I C T 機器を導入・活用した授業実践を数多く報告・提案してきた気鋭の研究者・実践者である。タブレット端末 iPad を用いた模擬授業と演習を中心とする研修を行った。
- ・ 内地留学生による自主研修会 … 茨城県教育委員会より現職教員が内地留学生（委託研修生）として前後期の 2 回，各 3 ヶ月間派遣される。期間中の研修・研究活動は，それぞれの研究教科に分かれ，かつ担当教員の指導の下で個別に行われることが中心となるが，お互いの研究や日頃の実践活動の交流を意図して，自主的に研修会が企画され，模擬授業を含む形で行われた。
- ・ 優秀教員による公開授業研修会 … 優秀教員として文部科学省により表彰された先生，茨城県教育委員会から表彰を受けた先生（“Teacher of Teachers”）を招き，学生を生徒役とした模擬授業を公開していただいた。優れた授業を学生に実際に体験させることを目的としたものである。

これらに関する詳細は別頁に報告されているので，そちらを参照されたい。

2-4 今後の課題—“全学教職センター”の開設に向けて

平成 28 年度より、当教育実践総合センターを母体として“全学教職センター”が開設される。現センターも当面併置されるが、現センターが行ってきた事業、教育学部において担ってきた役割・機能の大半を新“全学教職センター”が引き継いでいくことになる。現センターは「教育学部附属」との位置づけであるから、各事業・活動は教育学部における教育・研究活動の一部として取り組んできたものである。これまでも、他学部（人文学部、理学部、工学部、農学部）の教員や学生の参加を拒んできたものではもちろんないが、新「全学教職センター」は積極的に全学各学部における教員養成（教職教育）への支援・協力を主たる役割として担い、茨城大学全体における教育を通じて、さらにいっそう質の高い教員を養成するための中核的な組織となる。当「教員養成支援部門」における活動は、その方向性の中でいっそうの充実をはかっていく必要がある。

現時点においては、基本的にこれまで行ってきた事業・活動を現センターから引き継いで継続的に取り組みながら、全学各学部の教員養成教育の動向に応じて、必要と判断されるそれへの支援・協力に取り組んでいく方向である。

これまでも教育学部以外の学生の教職指導には部分的に参画してきたし、教員採用試験等にかかわる相談などにも随時応じてきたが、全学教職センターでは主体的・積極的にそれらに関わっていく計画である。そうしたことにも関わって、前項にも述べた「模擬授業室」を一室増設する予定である。既存の「模擬授業室」の隣に、やや狭い教室であるが、学生用の自主学習室として、パソコンが自由に使用できる環境を整えた教室があり、これを、自主学習室としての機能がある程度残しながら、やや小規模の「模擬授業室」として使用もできるよう、設備を整えていく。具体的には、20 名分の個別の机を置き、これまでは設置していなかった黒板を設置し、従来の「模擬授業室」同様、電子黒板を設置する。机はいわゆる「コンピュータールーム」用の天板の広い OA デスクとし、ノートパソコンやタブレット型パソコンなどの ICT 機器を使用しながら授業を行うことを想定している。こうしてできる大小二つの「模擬授業室」は、40 名規模の（小中学校における）大人数授業と 20 名以内の少人数授業、旧来型のどちらかと言えばアナログ中心の授業スタイル対応型と ICT 機器を用いたデジタル中心の授業スタイル対応型、というようにその機能を使い分けることができる。そうした場合、新たな「模擬授業室」は、機器やソフトウェアなどのさらなる充実が課題となるが、中長期的な予算措置を検討しながら取り組んでいきたい。前項に述べたように模擬授業室の稼働率が高くなってきたことにも対応できるであろう。

こうした一連の取り組みを通じて、教育学部はもちろん、全学における教職教育への協力・支援を行い、次代を担う教員養成に貢献できれば幸いである。

2-5 学ぶこと、教えることの楽しさ — 4年間の講座・集中講義を通して—

教育実践総合センター 客員教授 横瀬 晴夫

36年間の教員生活を終え、茨城大学教育学部に客員教授として勤めさせていただいたのが平成24年度でした。教育学部D201の教室、すり鉢の底のような、上から見下ろされる教室での、4年生教員志望者を前にしての「教採講座」は久しぶりに緊張しました。90分の大学での講座では、本当に「持つ」だろうかと不安いっぱい、教材研究は120分以上の内容を準備していました。

段々慣れてくると、指導する内容はもとより、授業中の雑談、36年間で出会ったこどもたち、同僚、保護者の方々との関わりや授業や生徒指導対応で失敗したこと、子どもたちと時には涙しながら関わったこと、教員を止めてしまいたいと思ったこと等々、講座の中で話していくと、学生の視線はより強く刺さってくるようでした。

2年目以降には、講座の他に「集中講義」を担当させていただき、一週間で15コマ、一コマ90分の準備は、2~3ヶ月をかけ、何をどのように、どこで演習的な活動をするか、大変ではありましたが、準備しながら授業を創造することは楽しみでもありました。それは何故かと言うと、もちろん20年ぶりの授業という意気込みもありましたが、授業の合間合間に学生に対して授業の感想を書いてもらうことで、学生たちが何を考え、何を求めているのか、と言うことを知りたかったし、学生が私の講座や講義に対しての評価をも知りたかったからでもありました。

そんな中から、学生に教えられたことを紹介します。

『…講義全般を通して、「教育は人」という言葉が頻繁に使われていたが、本当にその通りであると思う。生徒の非行や問題行動、先生と保護者の問題や先生同士での問題など「学校」という場は、常に多くの人々が関わり合う場所であるからこそ、様々な問題が日々起こる。そのような問題が起きたとき、「相手は一人の人間」ということを決して忘れずにいることが重要であると思う。当たり前なことであるが、やり方や方針が重視される現代において、人はマニュアル通りにはいかない、ということのを忘れがちのように思える。…』（集中講義「生活指導の方法」の感想）

頼もしいと感じました。よく私は、自己開示をしながら学生に語りかけます。学生にも、教師になったら、上手に教えることも大切だが、自分の感動体験や失敗談など、時には児童生徒に語りかけることも大事だよと話しています。ある女子学生は、自分を語りました。要約すると、

『…自分は大学に進学するつもりはなかったが、高校時代のある先生が、家庭が経済的に大学進学が難しくても、奨学金制度があり、アルバイトでいくらかでも勉強する機会はあるぞ、と教えてくれ、その先生に後押しされて今4年生になっていると。先生の導きがなかったら、今私はここにいなかった。…』（集中講義「教職実践演習」の感想）と書いてくれた。独力で生活、学業生活を切り拓き、必死に頑張っている彼女に教えられた気がした。

最後に、男子学生のおもしろい話があった。

『…私は、教室の一番後ろに座って授業を受けていました。久しぶりに前にいる大学生のたくさんの頭を見ました。前を向いて授業を受けている光景は、本当に久しぶりで感動しました。…』（集中講義「生活指導の方法」の感想）と。最初は何のことか全くわかりませんでした。学生に聞いてみると、いつもは両肩と頭の一部が見えるのだそうだ。つまり、頭を上げ、先生の話をしっかり聞いているということでした。なるほど、と感心すると同時にしっかりと目と耳で話を聞いてくれていたんだな、と思うと嬉しくなってきました。

自分勝手に都合のいいことばかり書いてきましたが、一人一人の学生は自分の中で様々なことを咀嚼しながら、合点したり、批判したり、疑問を深めたりしながら学んでくれれば良い、と思いました。義務教育で36年間、加えて大学で4年間、教えたり、学んだりすることができた。感謝したい。今度は、コメディアンのかきくみさんのように学生の中にどっぴりつかって学び直して見るのもいいな、と思っている。学生の皆さんのご活躍を期待しています。

3 地域教育支援部門

3-1 教育支援ボランティア活動報告

教育実践総合センターでは地域の教育支援ボランティア事業を行っています。これまで、水戸市学校支援活動（教育学部と水戸市教育委員会との協定にもとづくもの）と、県内の教育支援を行う県内教育支援ボランティア活動を行ってきましたが、本年度から新たに県立高校でのボランティア活動を行う高校ボランティア事業を立ち上げました。これは高校教員を目指す人文学部・理学部の学生が高等学校での教育支援活動を通して、教職に対する理解を深め、教員を目指す学生が増えてほしいとの思いから、活動の場の協力を高校にお願いした結果、かなえられたものです。

下表は、今年度の教育支援ボランティア活動状況です。水戸市学校支援活動の依頼件数は 114 件、派遣件数は前期募集・後期募集を併せて 34 件、活動延べ人数は 90 人です。県内教育支援ボランティアの依頼件数は 137 件、派遣件数は 101 件、活動延べ人数は 478 人です。高校ボランティア活動は年度途中のスタートではありましたが、募集依頼が 15 件あり、派遣件数は 9 件、活動延べ人数 9 人でした。これらのボランティアをあわせると今年度は 577 人の学生が活動に参加しました。

平成 27 年度 教育支援ボランティア活動状況

区 分	支援依頼数	派遣件数	活動延べ人数
水戸市学校支援活動	114	34	90
茨城県内教育支援ボランティア	137	101	478
高校ボランティア活動	15	9	9
合 計	266	144	577

(1) 水戸市学校支援活動

5月20日（水）教育学部 D 棟 101 教室において、平成 27 年度ボランティア活動ガイダンスを実施しました。今回は 130 名の学生が参加しました。学生のほとんどは 1 年生で、入学当初からボランティア活動に関心を持っていることがうかがえました。

まず、小川哲哉実践センター長からボランティア活動の意義について、次に実践センター専任教員の昌子佳広先生から参加の仕方や注意事項などについて説明がありました。続いて、水戸市総合教育研究所の鈴木陽子指導主事から「水戸市学校支援活動」の意図や募集について説明がありました。

その後、昨年度ボランティア活動に参加した教育学部の学生・院生からボランティア体験発表がありました。小学校の読み聞かせボランティアに参加した小倉早映子さんからは、ボランティア活動を通して何を感じられたかが大事だとの話がありました。中学校の家庭科学習支援を行った小林祥子さんは、生徒とのかかわりを通して教師になりたい思いが強くなったと話していました。水戸少年少女発明クラブに参加した郡司和徳さんからは、自分の好きなことばかりでなく、苦手なことにも挑戦することが大切ではないかとの発表が

ありました。ガイダンスに参加した学生たちは、真剣な表情で発表に耳を傾けていました。最後に、実践センター客員教授の横瀬晴夫先生、特命教授の柴原宏一先生から、教師としての実践的な力を付けるために社会での体験活動が重要であることや、教師の仕事の魅力などについての話があり、積極的なボランティア活動への参加に期待を込めてガイダンスが終了しました。

【事業担当】

水戸市総合教育研究所 鈴木 功 鈴木 陽子 廣瀬 文恵

茨城大学教育学部附属教育実践総合センター

五島 浩一 横瀬 晴夫 柴原 宏一 鯉淵 良子 小川 美穂

(2) 茨城県内教育支援ボランティア

茨城県内教育支援ボランティアは、県内の教育関連機関から随時募集を受付けています。教育支援ボランティアにふさわしい活動かどうかを担当者が確認し、学生へ情報提供しています。

今年度の県内教育支援ボランティアは、募集依頼件数 137 件、派遣件数 101 件、派遣延べ人数 478 人です。地域からの要望は毎年継続して募集依頼がくることも多くなってきています。（募集内容は 28 ページに掲載）

平成 27 年度 県教育支援ボランティア派遣状況

派遣先	依頼件数	派遣件数	派遣人数	派遣内容
学校関係（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）	84	62	309	学習支援、行事支援（運動会・宿泊学習・遠足）等
教育委員会関係	19	13	78	学びの広場サポーター、理科観察実験アシスタント、陸上記録会補助等
社会教育関係	22	19	68	茨城県警大学生サポーター、発明クラブアシスタント等
社会福祉関係	5	3	6	特別養護老人ホームイベント補助等
その他	7	4	17	スポーツ少年団指導、イベント補助等
計	137	101	478	

【事業担当】

教育実践総合センター 五島 浩一 横瀬 晴夫 柴原 宏一 鯉淵 良子 小川 美穂

(3) 県立高等学校での教育支援ボランティア

教育学部では、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会等との協定により、一部の県立高等学校や水戸市内及び近辺の小・中学校等で、学習支援やスタディーエイド等のボランティア活動に取り組んできました。

しかし、今までのボランティア活動の場の大部分が小・中学校であったため、高校教員を目指す学生から多様な高等学校を知るためにも高等学校でボランティア体験をしたいとの要望があることや、本センターとしても高校教員を目指す一般学部(人文学部、理学部等)生が高等学校での教育支援ボランティア活動をとおして教職に対する理解を深め、教職を志願する学生が増えてほしいことから、学生が高等学校で教育支援ボランティア活動を行う機会を増やしたいと考えました。そこで、年度途中ではありましたが、7月末に行われた茨城県高等学校長協会総会で、本学学生への教育支援ボランティア活動の場の提供をお願いしました。その際、

- ① 本学が所在する水戸市内・水戸近辺の高校だけでなく、学生が週末や休業中に、実家の近くにある高校でボランティア活動を行うことも想定していること
- ② 対象学生は教育学部だけでなく、人文学部、理学部等も含めて考えてほしいこと
- ③ 初めての取り組みのため、学生への周知が後期の授業開始時になってしまうので活動時期が11月以降になってしまうこと

を伝え、協力を依頼しました。その結果、年度途中にもかかわらず、次の学校から協力の申し出がありました。

学 校 名	支 援 活 動 の 概 要
水戸第二高等学校	・英語でのプレゼンテーションの指導
緑岡高等学校	・学校設定科目「SSH 課題研究」のアシスタント
友部高等学校	・授業の指導補助
茨城東高等学校	・授業の指導補助 ・学校設定科目の指導補助
鉾田第一高等学校	・放課後の学習サポート ・部活動の指導補助
鉾田農業高等学校	・文化祭での活動支援 ・「流通情報科」における授業・行事の支援
牛久高等学校	・土曜日の学習支援
明野高等学校	・部活動の指導補助
伊奈高等学校	・土曜学校開放時の学習支援
古河中等教育学校	・学習相談アドバイザー ・探求活動アドバイザー ・部活動の指導補助

年度途中からの取組であることや開始時期が 11 月ということもあり、希望学生がいるか不安もありましたが、10 校からの協力申し出に対し、8 名の学生が 6 校で次のような教育支援ボランティア活動を行いました。

学校名	支援活動の内容	参加学生の所属
水戸二	英語のプレゼンテーション指導	教育学部 英語選修
緑 岡	「SSH 課題研究」のアシスタント	理学部 数学コース
銚田一	ソフトテニス部の指導補助	人文学部 社会科学科
銚田一	弓道部の指導補助	教育学部 養護教諭養成課程
銚田一	放課後の学習サポート サッカー部の指導補助	理学部 数学コース
銚田農	文化祭の活動支援	人文学部 人文コミュニケーション学科
牛 久	課外学習の指導補助	理学部 地球環境科学コース
伊 奈	土曜学習の指導補助	理学部 数学コース

活動に参加した学生の内訳は、教育学部 2 名、人文学部 2 名、理学部 4 名と、当初目的とした「高校での一般学部(人文学部、理学部等)生のボランティア活動参加」は、ある程度達成できたものと考えています。

また、参加した学生に意見を聞いても、「生徒が意欲的に研究に取り組み、自らの力で研究結果をまとめて発表する姿に感心した。生徒の好奇心に柔軟に対応していけるよう、私自身も大学の勉強に今まで以上に取り組もうと思い、良い刺激になった。」、「生徒がどういった考えを持っているのか少しわかった。」、「実際に経験することでモチベーションがあがった。」、「自分が高校生のとくとはまた違う目線で高校生の活動を見たり体験することができた。」、「ボランティアのときに高校生に教えたりコミュニケーションをとったりと、普段友達と交わしているものとは異なったことを経験することが出来たのでとても大切な経験だと思った。」など、ボランティアをとおして成長した学生の姿を見ることができました。

平成 27 年度は年度途中からの取組だったため、学生への周知等で十分ではありませんでした。しかし、参加学生の一人が「教採講座や相談室でいろいろな実践経験を聞いて知識ばかり持っていましたが、今回のボランティアで実践することによって、今までよりも教職に対する関心や意欲が増しました。参加して本当によかったです。」と述べているように、「ボランティア(実践)をとおして教職に対する理解を深める」という当初の目的に関しては、高等学校教諭等を希望している参加学生のモチベーションを上げることには効果があったと考えています。

平成 28 年度は、年度当初のボランティア活動の説明会に教育学部以外の学生も多く参加するよう周知法を工夫することで、高校での教育支援ボランティア活動に参加する学生が増えることを目指して、茨城県教育委員会や茨城県高等学校長協会と連携を図りながら、高等学校での教育支援ボランティア活動をひろめてまいります。

水戸市学校支援活動 募集一覧

1. 前期募集

<幼稚園>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
K1	寿幼稚園	村山春美教頭	平成 27 年 5 月 23 日 (雨天時:5 月 24 日)	2	1	要相談	運動会での準備・競技補助・トイレへの付き添い	女性希望
K2	千波幼稚園	蛭田恵子教頭	平成 27 年 5 月下旬～ 平成 28 年 2 月	3	15	9:00～14:00	通常保育の補助	
K3	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成 27 年 10 月～ 平成 28 年 2 月	3	15	要相談	通常保育の補助	
K4	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成 27 年 10 月 16 日	3	1	要相談	親子レクリエーションの補助・手伝い	
K5	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成 27 年 11 月 6 日	3	1	要相談	焼き芋会の補助	
K6	国田幼稚園	小田野恵教頭	平成 28 年 2 月 17 日, 22 日, 24 日	3	3	要相談	卒園式の準備・補助	
K7	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成 27 年 7 月 2 日	6	1	9:00～11:30	行事の補助(じゃがいも掘りの手伝い)	
K8	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成 27 年 10 月 24 日	10	1	8:00～12:00	行事の補助(運動会の準備・競技の補助)	
K9	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成 27 年 11 月 9 日	6	1	9:00～11:30	行事の補助(サツマイモ掘りの手伝い)	
K10	内原幼稚園	鈴木美智子教頭	平成 27 年 12 月 12 日	6	1	8:00～12:00	発表会の補助(発表会での道具の準備・衣装を身に付ける手伝い)	

<小学校>

支援活動 No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
E1	城東小学校	猪野典子教頭	平成 27 年 5 月下旬～7 月下旬	1	15	8:30～15:30	特別な支援を要する児童への個別支援(日本語が分からない児童への英語等での支援)	5 年男子(フィリピンから来日して 2 カ月しか経っていない。タガログ語を使っていた。英語が理解できる)
E2	見川小学校	遠藤愛美養護教諭	平成 27 年 5 月 23 日 (雨天時:5 月 24 日)	2	2	7:30～16:00	学校行事の補助(運動会の救護係の補助等)	
E3	赤塚小学校	相澤牧夫教諭	平成 27 年 5 月 23 日 (雨天時:5 月 24 日)	5	1	9:00～15:00	学校行事の補助(運動会での競技に使用する器具等の準備や後片付け, 児童の招集誘導, ライン引き, 放送等)	運動会
E4	大場小学校	川又宏文教頭	平成 27 年 5 月 22 日	5	1	15:00～17:00	学校行事の補助(運動会の準備)	男性希望
E5	堀原小学校	齋田由加理教諭	平成 27 年 5 月 30 日 (雨天時:5 月 31 日)	10	1	要相談	運動会の準備および競技補助	
E6	堀原小学校	齋田由加理教諭	平成 27 年 5 月～平成 28 年 2 月 (休日も含む)	2	15	要相談	金管部の練習補助 音楽集会での補助	金管楽器演奏経験者希望
E7	堀原小学校	齋田由加理教諭	平成 27 年 5 月～平成 28 年 2 月 (夏季休業中の練習も含む)	1	15	要相談	合唱団の練習補助 音楽の授業における合唱指導 音楽集会等での補助	
E8	吉沢小学校	戸田康昭教諭	平成 27 年 5 月 8 日～7 月 17 日 (毎週金曜日)	2	11	14:00～15:30	特別支援学級(情緒学級)の学習支援	
E9	三の丸小学校	飯塚宏昭教諭	平成 27 年 5 月 30 日 (雨天時:5 月 31 日)	5	1	要相談	学校行事の補助(運動会の準備係)	昼食は学校で用意します
E10	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成 27 年 5 月 30 日 (雨天時:5 月 31 日)	2	1	要相談	学校行事の補助(運動会の準備係の補助)	男性希望

E11	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 5 月 22 日 (雨天時は変更になる場合あり)	10	1	13:30 ~ 17:00	学校行事の前日準備 (運動会の準備)	
E12	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 5 月 23 日 (雨天時は 5 月 25 日月曜日)	10	1	8:00 ~ 16:00	学校行事の補助 (運動会の各係手伝い・準備・片付け・児童看護)	
E13	内原小学校	岩木秀子教諭	平成 27 年 5 月 30 日	3	1	8:00 ~ 15:30	学校行事の補助 (運動会の準備・競技の補助)	
E14	鯉淵小学校	高星茂紀教諭	平成 27 年 5 月 22 日	5	1	13:00 ~ 16:30	学校行事の補助 (運動会の前日準備)	男性希望
E15	鯉淵小学校	高星茂紀教諭	平成 27 年 5 月 23 日	5	1	8:00 ~ 15:00	学校行事の補助 (運動会の競技補助)	男性希望
E16	稲荷第一小学校	石井浩之教諭	平成 27 年 5 月 23 日	3	1	8:00 ~ 16:00	学校行事の補助 (運動会の競技補助・児童看護補助)	
E17	双葉台小学校	石塚忍教諭	平成 27 年 6 月 2 日	4	1	8:40 ~ 11:20	校外学習の引率補助 (3 年社会科学区探検)	
E18	双葉台小学校	石塚忍教諭	平成 27 年 7 月 22 日, 23 日, 24 日, 27 日, 28 日	16	5	8:30 ~ 11:00	夏休み学びの広場における学習支援 (4, 5 年算数科)	
E19	双葉台小学校	石塚忍教諭	平成 27 年 9 月末および 10 月中旬	5	2	要相談	生活科校外学習の引率補助 (2 年学区探検)	
E20	双葉台小学校	石塚忍教諭	平成 27 年 11 月中旬	2	1	午前中	第 3 学年体育科 持久走の試走支援	
E21	双葉台小学校	石塚忍教諭	平成 27 年 12 月, 平成 28 年 1 月	4	2	要相談	第 5 学年理科 実験の支援・準備	
E22	双葉台小学校	石塚忍教諭	平成 28 年 2 月 1 日 ~ 2 月 15 日	2	10	要相談	第 1 学年体育科 跳び箱・マット運動支援	
E23	緑岡小学校	大内邦明教諭	平成 27 年 11 月 20 日	5	1	8:30 ~ 12:00	持久走大会の児童看護補助、競技補助	
E24	城東小学校	猪野典子教頭	平成 27 年 9 月中旬 ~ 下旬 (平日)	4	5	要相談	授業における学習支援 (陸上競技)	
E25	城東小学校	猪野典子教頭	平成 27 年 11 月 17 日	8	1	8:30 ~ 12:00	持久走大会の伴走、記録	
E26	上大野小学校	仲田 昇教頭	平成 27 年 5 月 ~ 平成 28 年 2 月	2	10	月・火・水・金 13:10 ~ 13:40 木 13:00 ~ 13:40	昼休みの支援 (外遊び), 読書タイムでの読み聞かせ	
E27	上大野小学校	仲田 昇教頭	平成 27 年 7 月, 9 月 (放課後)	2	15	月 14:50 ~ 16:00 火~金 15:40 ~ 16:30	放課後の陸上競技指導支援	
E28	上大野小学校	仲田 昇教頭	平成 27 年 11 月 ~ 12 月	2	10	要相談	5, 6 年算数指導支援 (個別支援)	
E29	内原小学校	岩木秀子教諭	平成 27 年 6 月 5 日 ~ 7 月まで及び平成 27 年 9 月 4 日 ~ 月 2 日, 10 月 23 日は除く)	2	15	8:30 ~ 12:10	授業における学習支援 (第 1 学年, 第 3 学年)	
E30	内原小学校	岩木秀子教諭	平成 27 年 10 月 2 日	2	1	8:30 ~ 15:00	1, 2 学年遠足の引率補助 (アクアワールド大洗方面)	
E31	内原小学校	岩木秀子教諭	平成 27 年 10 月 23 日	6	1	8:00 ~ 15:00	学校行事の補助 (ミニハイキング)	
E32	吉沢小学校	戸田康昭教諭	平成 27 年 6 月 29 日 ~ 平成 27 年 7 月 3 日	2	5	月 9:30 ~ 12:30 火 8:40 ~ 15:30 水 8:40 ~ 12:30 木 9:30 ~ 15:30 金 8:40 ~ 12:30	水泳学習の支援	
E33	堀原小学校	齋田由加理教諭	平成 27 年 9 月初旬 ~ 平成 27 年 10 月	5	15	要相談	6 年体育 陸上競技の練習補助	
E34	見川小学校	遠藤愛美養護教諭	平成 27 年 10 月中旬 ~ 下旬	4	1	12:30 ~ 16:00	就学時健康診断の補助	教育学部養護教諭養成課程 3 年次または 4 年次の学生希望

E35	千波小学校	石井隆子教諭	平成 27 年 10 月～ 11 月 (2 日間) ※雨天の時延期あり	5	2	午前中	第 2 学年生活科 (学区探 検の付き添い)	
E36	千波小学校	石井隆子教諭	平成 27 年 11 月～ 12 月 (2 日間)	5	2	午前中	第 2 学年算数 (かけ算の 学習支援)	5 人ずつの派遣を 希望
E37	千波小学校	石井隆子教諭	平成 27 年 11 月 4 日、11 月 5 日	2	2	9:00～16:00	宿泊学習の引率補助 (第 5 学年)	現地集合現地解散
E38	千波小学校	石井隆子教諭	平成 27 年 11 月 (5 日間) 平成 28 年 1～2 月 (5 日間)	2	10	8:30～12:15	第 5 学年理科 実験・観 察の支援	
E39	千波小学校	石井隆子教諭	平成 28 年 1～2 月 (2 日間)	2	2	午前中	第 2 学年体育 (なわとび の学習支援)	
E40	赤塚小学校	相澤牧夫教諭	平成 27 年 7 月 22 日、23 日、24 日、27 日、28 日	5	5	9:00～12:00	プールの指導補助	プール内に入って 支援できる人
E41	赤塚小学校	相澤牧夫教諭	平成 27 年 11 月 21 日	6	1	9:00～15:00	P T A 主催のまつり補助 (校内巡視・児童の見守り・片付け)	
E42	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 6 月下旬～7 月上旬	2	15	要相談	第 1 学年体育科 跳び箱 運動支援	
E43	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 7 月 27 日～ 31 日 (5 日間)	5	5	8:30～12:00	プールの指導補助 (夏休み)	
E44	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 9 月 10 日	3	1	8:00～16:00	第 2 学年遠足の引率補助 (霞ヶ浦ふれあいランド) 個別支援の必要な児童への支援	
E45	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 9 月 11 日～ 12 日	2	2	7:30～16:00	第 5 学年宿泊学習の引率補助 (白浜少年自然の家)	食事・宿泊代等は 実費
E46	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 9 月 17 日	3	1	8:30～15:00	第 1 学年遠足の引率補助 (アクアワールド大洗)	食事代等は実費
E47	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 9 月 18 日	2	1	8:00～16:00	第 4 学年遠足の引率補助 (大子方面)	食事代等は実費
E48	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 9 月 25 日	3	1	8:00～16:00	第 3 学年遠足の引率補助 (笠間方面)	食事代等は実費
E49	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 10 月中旬	3	1	要相談	第 2 学年生活科 (まち探 検の付き添い)	
E50	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 10 月 30 日	10	1	8:30～12:00	ハミングロードハロ ウィーンでの児童看護補助	10 名以上希望 ハロウィンの仮装をして参加してください
E51	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 11 月 15 日 (雨天 11 月 17 日)	10	1	8:30～12:00	持久走大会での伴走・児童看護補助	
E52	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 11 月下旬 (3 日間)	6	3	要相談 45 分×3	第 2 学年算数 (かけ算の 学習支援)	
E53	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 28 年 2 月中旬 (3 日間)	6	3	要相談 45 分×3	第 2 学年体育 (なわとび の学習支援)	
E54	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成 27 年 6 月～平成 28 年 2 月の火曜日 (毎月 3 回程度) ※平日を除く	2	20	13:00～13:45	昼休みの支援 (遊び相手・相談相手)	男性 1 名、女性 1 名
E55	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成 27 年 9 月 8 日～ 9 月 29 日 (10 日間)	3	10	15:30～17:00	陸上記録会練習の補助と指導	
E56	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成 27 年 11 月 11 日	2	1	8:30～11:30	学校行事の補助 (持久走大会)	
E57	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成 27 年 12 月 6 日	2	1	8:30～14:00	学校行事の補助 (柳河ふれあいまつり) 焼きそば作り手伝い	
E58	柳河小学校	菊田聡子教諭	平成 27 年 12 月 15 日	2	1	8:00～13:00	学校行事の補助 (そば打ち)	
E59	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 27 年 6 月 2 日～ 25 日 (火・水・木)	2	12	火 10:35～11:20 水 11:25～12:10 13:50～14:35 木 11:25～12:10	第 5 学年家庭科 (縫い物の補助)	

E60	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 27 年 7 月 1 日～ 17 日(14 日)	2	14	8:40～12:10	体育科水泳指導補助	雨天中止
E61	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 27 年 9 月 7 日～ 25 日	4	12	月 13:50～16:00 火～金 14:40～16:30	陸上記録会練習の準備と補助	雨天中止
E62	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 27 年 9 月 17 日	4	1	8:15～16:00	第 2 学年遠足の引率補助 (アクアワールド大洗)	
E63	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 27 年 10 月 9 日	4	1	8:15～16:00	第 1 学年遠足の引率補助 (県立植物園)	
E64	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 27 年 10 月～ 12 月	2	15	毎日 2 時間程度	第 2 学年算数 (かけ算の学習支援) 第 2 学年体育 (鉄棒の学習支援)	
E65	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 27 年 10 月 30 日	4	1	8:15～16:00	第 3 学年遠足の引率補助 (筑波山登山)	
E66	河和田小学校	井坂真理子教諭	平成 28 年 1 月～ 2 月	3	15	毎日 2 時間程度	第 1 学年算数 (計算の学習支援) 第 1 学年体育 (なわとびの学習支援) 第 1 学年生活 (昔遊び体験の支援)	

< 中学校 >

支援活動 No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
J1	見川中学校	追田祐子養護教諭	平成 27 年 5 月 18 日	2	1	8:50～11:00	学校行事の補助 (心臓検診)	養護教諭養成課程の学生 (女性) 希望
J2	見川中学校	追田祐子養護教諭	平成 27 年 5 月 20 日	2	1	13:30～16:00	学校行事の補助 (内科検診)	養護教諭養成課程の学生 (女性) 希望
J3	見川中学校	追田祐子養護教諭	平成 27 年 5 月 21 日	2	1	13:30～16:00	学校行事の補助 (内科検診)	養護教諭養成課程の学生 (女性) 希望
J4	見川中学校	追田祐子養護教諭	平成 27 年 6 月 3 日	2	1	13:30～16:00	学校行事の補助 (内科検診)	養護教諭養成課程の学生 (女性) 希望
J5	見川中学校	追田祐子養護教諭	平成 27 年 6 月 4 日	2	1	13:30～16:00	学校行事の補助 (内科検診)	養護教諭養成課程の学生 (女性) 希望
J6	見川中学校	富永幸枝教諭	平成 27 年 5 月～ 7 月まで (週 1 回～) 月 3, 4, 火 3, 4, 5, 6, 水 3, 4, 5, 6, 木 3, 4, 5, 6, 金 2, 4	5	15	要相談	学習支援 (家庭科の授業準備・片付け, 授業中の補助)	曜日ごとに 1 人希望
J7	見川中学校	小林優人教諭	平成 27 年 5 月～ 7 月まで (週 1 回～) 月 3, 4, 火 3, 4, 5, 6, 水 3, 4, 5, 6, 木 3, 4, 5, 6, 金 2, 4	5	15	要相談	学習支援 (技術の製作の準備・片付け, 製作補助)	曜日ごとに 1 人希望
J8	第五中学校	小林毅教諭	平成 27 年 5 月 25 日～平成 28 年 2 月 26 日	3	15	8:40～15:40	学習支援 (特別支援学級 1～3 年生, 主に数学・英語)	
J9	双葉台中学校	大高眞澄教頭	平成 27 年 6 月 1 日～平成 27 年 12 月 22 日 (毎週 1 回程度)	1	15	午前中	ADHD の障害を持つ 第 2 学年男子生徒への支援 (話を聞く・学習支援・生活指導)	男性希望
J10	第一中学校	松崎精一教諭	平成 27 年 6 月～平成 27 年 10 月の土曜日 (月 2 回程度)	1	10	8:30～11:30	合唱部の練習補助	
J11	第一中学校	高橋幸平教諭	平成 27 年 6 月～平成 28 年 2 月	1	15	要相談	理科の教材準備・実験補助	
J12	第一中学校	飛田亜紀教諭	平成 27 年 6 月～平成 28 年 2 月	3	15	要相談	授業における学習支援 (家庭科)	
J13	第一中学校	多邊田翔一教諭	平成 27 年 9 月～平成 28 年 12 月	3	15	要相談	技術における学習支援 (木工加工補助・準備)	技術科以外の学生でも可
J14	第一中学校	蓮見宏明教諭	平成 27 年 10 月 5 日～平成 28 年 3 月 18 日	2	15	要相談	授業における学習支援 (第 1, 2 学年)	

2. 後期募集

<幼稚園>

支援活動 No.	希望園	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
K11	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成 27 年 10 月 23 日 (金)	2	1	9:00 ~ 13:00	C 十三夜おにぎりパーティー (幼児が野菜を切る際の補助, 配膳補助)	エプロン・三角巾・マスク持参 爪を切る, マニキュア不可
K12	寿幼稚園	村山春美教頭	平成 27 年 10 月 26 日 (月) ※雨天時 30 日 (金)	2	1	8:30 ~ 14:00	B 校外学習の引率補助 (サツマイモ堀り)	女性希望
K13	五軒幼稚園	綿引紀子教頭	平成 27 年 11 月 27 日 (金)	2	1	9:00 ~ 12:00	B わかな保育園との交流の引率補助	歩きやすい服装, 水筒持参
K14	吉田が丘幼稚園	大畠祐子教頭	平成 27 年 12 月 11 日 (金)	3	1	8:45 ~ 11:45	C 園行事の補助 (発表会の補助)	女性希望
K15	城東幼稚園	笹嶋千香子教頭	平成 28 年 1 月 22 日 (金)	2	1	9:30 ~ 11:00	C 新入園児 1 日体験における保育補助	女性希望

<小学校>

支援活動 No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
E67	下大野小学校	村上満江教諭	平成 27 年 10 月 8 日 (木) 15 日 (木) 22 日 (木) 29 日 (木)	5	4	10:35 ~ 12:10	A 5, 6 年家庭科のミシン指導補助	
E68	国田小学校	川崎尚子養護教諭	平成 27 年 10 月 22 日 (木)	6	1	13:00 ~ 15:00	C 就学時健康診断の発育測定及び記録補助	養護教諭養成課程 3, 4 年生の学生希望
E69	千波小学校	石井隆子教諭	平成 27 年 10 月 23 日 (金)	4	1	13:00 ~ 16:00	C 就学時健康診断の補助 内科・歯科検査時の補助 検査終了後は児童看護補助	養護教諭養成課程の学生希望
E70	下大野小学校	村上満江教諭	平成 27 年 10 月 28 日 ~ 12 月 9 日 平成 28 年 1 月 13 日 ~ 2 月 24 日 毎週 水曜日	4	14	13:00 ~ 13:45	C 昼休みの支援 (遊び相手, 相談相手等)	
E71	下大野小学校	村上満江教諭	平成 27 年 10 月 29 日 ~ 12 月 10 日 平成 28 年 1 月 14 日 ~ 2 月 25 日 毎週木曜日	3	13	8:10 ~ 8:25	F 朝の活動における読み聞かせ	1 月 21 日 (木) の活動はありません
E72	笠原小学校	新井淳子教諭	平成 27 年 10 月下旬 ~ 平成 28 年 2 月 29 日 (月) 10 日間	2	10	要相談	D 特別な配慮を要する児童に対する個別支援 (第 1 学年 学習や活動の支援)	
E73	吉沢小学校	戸田康昭教諭	平成 27 年 10 月 6 日 ~ 平成 28 年 2 月 23 日 毎週火曜日	1	15	13:30 ~ 15:30	A 特別支援学級における学習支援 (第 2 学年)	
E74	吉沢小学校	戸田康昭教諭	平成 27 年 10 月 8 日 ~ 2 月 25 日 毎週木曜日	1	15	13:30 ~ 14:30	A 特別支援学級における学習支援 (第 2 学年)	
E75	下大野小学校	村上満江教諭	平成 27 年 11 月 5 日 (木), 12 日 (木)	2	2	9:25 ~ 11:20	A 英会話活動の支援	
E76	下大野小学校	村上満江教諭	平成 28 年 1 月 14 日 (木), 21 日 (木)	2	2	14:00 ~ 15:35	A 英会話活動の支援	
E77	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 27 年 12 月中旬 3 日間	5	3	要相談	A 第 4 学年算数科 (そろばん) における学習支援	
E78	浜田小学校	黒羽洋嗣教諭	平成 28 年 2 月 活動日は相談で決める	9	15	要相談	A 第 1 学年体育科 (なわとび) における学習支援	
E79	双葉台小学校	石塚忍教諭	平成 28 年 1 月 ~ 平成 28 年 2 月 (水曜日, 木曜日, 金曜日)	4	15	13:45 ~ 15:30	A 第 5 学年家庭科 (ミシン) における学習支援	日時変更可, 要相談

E80	稲荷第二小学校	浅野尚子教諭	平成 28 年 1 月の金曜日 2 日間	2	2	10:30 ~ 12:10	A	第 2 学年 図画工作 (版画) における学習支援	
E81	稲荷第二小学校	浅野尚子教諭	平成 28 年 1 月下旬 ~ 2 月上旬 6 日間 (週 3 日間 × 2)	2	6	10:30 ~ 11:20	A	第 3 学年 体育科 (跳び箱・マット運動) における学習支援	
E82	稲荷第二小学校	浅野尚子教諭	平成 28 年 1 月下旬 ~ 2 月 木曜日 (3 日間)	3	3	9:00 ~ 12:00	A	第 5 学年 家庭科 (ミシン) における学習支援	

＜中学校＞

支援活動 No.	希望校	担当者名	派遣希望日	人数	日数	時間	支援を受けたい内容	備考
J15	内原中学校	浅川 晃教頭	平成 27 年 10 月 1 日 ~ 11 月 27 日 毎週 火曜日・木曜日	3	15	9:00 ~ 11:50	A 第 1 学年 国語, 数学, 英語の学習支援	女性希望
J16	見川中学校	路川真都教諭	平成 27 年 10 月 ~ 12 月 活動日は相談で決まる	4	15	要相談	A 英語の学習支援	
J17	見川中学校	米川裕美教諭	平成 27 年 10 月 ~ 平成 28 年 2 月 週 1 日 (学生の都合がつく 曜日)	3	15	要相談	A 理科の観察, 実験の準備, 片付け, 実験補助	理科教員を目指す学生 週 1 日以上でも可能

平成 27 年度 水戸市学校支援活動 活動状況

No.	支援活動 No.	派遣先	活動の内容	活動人数
1	K8	内原幼稚園	行事の補助(運動会の準備・競技の補助)	6
2	K10	内原幼稚園	行事の補助(発表会の補助)	2
3	E2	見川小学校	学校行事の補助(運動会の救護補助等)	2
4	E3	赤塚小学校	学校行事の補助(運動会の競技補助、招集誘導、ライン引き、放送等)	4
5	E5	堀原小学校	運動会の準備および競技補助	11
6	E6	堀原小学校	金管部の練習補助、音楽集会での補助	2
7	E7	堀原小学校	合唱団の練習補助	1
8	E9	三の丸小学校	学校行事の補助(運動会の準備係)	5
9	E10	柳河小学校	学校行事の補助(運動会の準備係の補助)	2
10	E13	内原小学校	学校行事の補助(運動会の準備・競技の補助)	3
11	E21	双葉台小学校	第 5 学年理科実験の支援・準備	2
12	E22	双葉台小学校	第 1 学年体育科跳び箱・マット運動支援	2
13	E23	緑岡小学校	持久走大会の児童看護補助	1
14	E31	内原小学校	学校行事の補助(ミニハイキング)	5
15	E36	千波小学校	第 2 学年算数(かけ算の学習支援)	3
16	E41	赤塚小学校	PTA 主催の祭り補助	5
17	E44	浜田小学校	第 2 学年遠足の引率補助	1
18	E48	浜田小学校	第 3 学年遠足の引率補助	3
19	E50	浜田小学校	ハミングロードハロウィンでの児童看護補助	6
20	E57	柳河小学校	学校行事の補助(柳河ふれあいまつり)	2
21	E63	河和田小学校	第 1 学年遠足の引率補助	1
22	E66	河和田小学校	第 1 学年算数・体育・生活の学習支援	3
23	E69	千波小学校	就学時健康診断の補助	1
24	J1	見川中学校	学校行事補助(心臓健診 5/18)	2
25	J2	見川中学校	学校行事補助(内科健診 5/20)	2
26	J4	見川中学校	学校行事補助(内科健診 6/3)	2
27	J6	見川中学校	学習支援(家庭科の授業準備・片付け、授業中の補助)	2
28	J7	見川中学校	学習支援(技術の制作の準備・片付け・制作補助)	4
29	J8	第五中学校	学習支援(特別支援学級 1~3 年生、主に数学・英語)	3
30	J9	双葉台中学校	ADHD の障害を持つ男子生徒への支援	1
31	J10	第一中学校	合唱部の練習補助	1
32	J11	第一中学校	理科の教材準備・実験補助	1
33	J13	第一中学校	技術における学習支援	1
34	J16	見川中学校	英語の学習支援	1

活動件数 34 件、幼稚園 2 件、小学校 21 件、中学校 11 件、活動延べ人数 90 人

茨城大学教育学部と水戸市教育委員会との地域連携にかかる学校支援活動報告書

水戸市教育委員会

1 支援活動の実施状況

区 分	活動人数	活動日数	主な活動内容
幼稚園 1 園	8 人	8 日	園行事（親子運動会、発表会等）
小学校 11 校	59 人	164 日	各教科の学習支援，学校行事（運動会，持久走大会等）支援，その他児童の支援等
中学校 4 校	18 人	91 日	各教科（英語，理科，家庭等）の学習支援，部活動実技指導 等
計 16 校（園）	85 人	263 日	

2 幼稚園，小・中学校の支援活動実施後の感想，要望

(1) 幼稚園

- ・ 子どもたちに明るく声をかけたり関わったりと，積極的な支援をしていただきました。
- ・ 6名の学生が連携を図り，敏速な支援をしていただいたのでとてもありがたかったです。
- ・ 学生が教職員と連携しながら敏速に大道具の出し入れをしてくれたので，とてもありがたかったです。

(2) 小学校

- ・ 学生に補助に入っただき，応急手当や準備，後片付けがスムーズに運びました。
- ・ 朝早くから準備やトイレ等の見回りをしていただいたおかげで，時間通りに運動会を開会することができました。競技が始まってからも，児童と準備やその他の係活動を行ったり，組み体操の補助などに入っただいたりしたので，とてもスムーズに運動会を進めることができました。怪我をする児童も大変少なく，運動会を成功に終えることができました。
- ・ 合唱団のパート練習等の指導をお願いしました。音楽集会をはじめ，音楽のつどいやクリスマスコンサート等で伴奏していただき，素敵な演奏を発表することができました。
- ・ 熱心な態度で仕事の内容を確認し，積極的に関わろうと頑張ってくださいました。児童に対しても明るく爽やかに接し，仕事内容が分かりにくい中でも自分から行動し，元気に役割を果たしていました。気温が上昇する中の準備活動は，仕事量も多く，体力的にも大変だったかと思いますが，適切にお手伝いいただき大変助かりました。
- ・ 本校は児童数，教職員数ともに少ないため，準備係と審判係をお願いして児童と一緒に活動していただきました。また，早朝から教職員と一緒に準備，最後の後片付けまで手伝っていただき，大変助かりました。



【小学校の支援】

- ・ 持久走大会において、自転車に乗って走者の一番後ろを看護してもらいました。笑顔で一番後ろを走る児童に声援を送り続け、大会終了後も片付け等を積極的に手伝っていただきました。大変ありがたかったです。
- ・ 1年生から3年生で構成される班活動を見守ってもらいました。そのおかげもあり、子どもたちは安心してアトラクションを体験することができました。また、後片付けも意欲的に取り組んでいただき、スムーズに片付けることができました。大変助かりました。来年度もぜひ多くの学生さんに支援していただければ幸いです。
- ・ 仕込から調理・販売、後片付けまで精一杯作業してくださいました。職員数が少ない学校なので、ボランティアに入っていただき大変助かりました。
- ・ 一人一人の声かけが適切で、子どもに寄り添った言葉かけができ、大変助かりました。またお願いしたいです。

(3) 中学校

- ・ 指示した作業を素早く的確に行ってください、非常に助かりました。ありがとうございました。
- ・ 調理実習中は、生徒一人一人に丁寧に声を掛けてくれたので、生徒に目が行き届き大変ありがたかったです。事前の打合せをしっかりと行うと、もっとよい活動になったと思います。
- ・ 英語と数学の学習支援を通して、本人及びその周辺生徒への適切なアドバイスによって、それぞれの教科への不安も減少し、「分かった」「できた」という生徒が増えました。教科担当教師との連携もできました。
- ・ 個別に配慮を要する生徒に寄り添って丁寧に話を聞いたり、活動の手伝いをしたりしました。生徒が落ち着いて活動でき、大変助かりました。
- ・ 英会話における授業の支援を行っていただきました。生徒一人一人に丁寧に声をかけながら個別に支援したり、デモンストレーションの手伝いをしていただいたりし、大変助かりました。



【中学校の支援】

3 教育委員会からの感想、要望

大学等との連携による学校教育支援活動は、平成17年に協定を締結して以来、多くの学校（園）で様々な活動を行っていただいております。温かく子どもたちに関わっている姿、学校行事の準備や片付けに責任をもって熱心に活動している姿に、支援をしていただいた学校（園）からも、学生の学校支援が教育活動の大きな支えとなっているという感想をたくさんいただいております。

毎年、学校（園）からは数多くの支援活動の希望が出されており、学生の熱意と若い力に対する期待はますます大きなものとなっています。また、将来、教職を目指す学生の皆さんにとっては学校現場に関わる絶好の機会でもあり、支援に関わってくださった学生の皆さんからも、実際に子ども達と関わる中で大きな学びを得たという感想も受けております。

今後も、この学校支援活動に積極的に参加していただき、教育活動を支えてくださいますよう、よろしくお願いたします。

平成 27 年度 県内教育支援ボランティア 活動状況

No.	ボランティア名	募集先	参加人数	No.	ボランティア名	募集先	参加人数
1	古河塾学習サポーター	古河市教育委員会	1	29	水泳指導における補助	那珂市立五台小学校	0
2	茨城県警大学生サポーター	茨城県警察本部少年課	18	30	運動会 係員	水戸市立渡里小学校	15
3	夜間生活指導補助職員	県立茨城学園	2	31	小学校陸上競技大会 補助	笠間市立笠間小学校	1
4	こどもふれあい広場 in こどもの城 補助	茨城県立児童センター こどもの城	6	32	運動会 前日準備	水戸市立堀原小学校	6
5	学習支援	水戸市立堀原小学校	19	33	「え～・どうして・サイエンス」教室 (午前の部)	NPO 法人ひと・まちなっとわーく	5
6	PTA 総会・授業参観・懇談会 補助	水戸市立堀原小学校	6	34	「え～・どうして・サイエンス」教室 (午後の部)	NPO 法人ひと・まちなっとわーく	1
7	運動会 補助	水戸市立堀原小学校	1	35	とものとサポーター	県立友部特別支援学校	0
8	水戸少年少女発明クラブ	水戸市教育委員会事務局 生涯学習課	11	36	サマーキャンプボランティア	野外教育研究財団	0
9	学習支援	児童養護施設 若草園	4	37	水泳学習の学習支援	那珂市立横堀小学校	0
10	高校 学習支援員	茨城県教育委員会	18	38	書写の学習支援	那珂市立横堀小学校	0
11	理科観察実験アシスタント	水戸市教育委員会	9	39	特別支援学級の学習支援	那珂市立横堀小学校	1
12	運動会 補助	那珂市立五台小学校	6	40	数学科授業サポート	水戸市立第一中学校	2
13	図書ボランティア	水戸市立国田小中学校	3	41	学習サポート	つくば市立九重小学校	0
14	学習支援	水戸市立第五中学校	1	42	ボランティア講座	水戸市障害福祉課	0
15	ふれあいの船引率	常陸大宮市教育委員会	0	43	宿泊共同学習(第1学年)補助・支援	附属中学校	2
16	ミニバスケットボール指導	新荘ミニバスケットボール スポーツ少年団	3	44	宿泊共同学習(第2学年)補助・支援	附属中学校	2
17	ミニバスケットボール支援	五軒ミニバスケットボール 少年団	1	45	宿泊共同学習(第3学年)補助・支援	附属中学校	2
18	宿泊学習支援	ひたちなか市立長堀小学校	1	46	「ボランティアスクール」	茨城県立水戸特別支援学校	0
19	学習支援	水戸市立渡里小学校	29	47	夏休み期間の学習サポート	つくば市立百合ヶ丘学園 菅間小学校	0
20	小学生陸上記録会 補助員	小美玉市教育研究会 保健体育部	7	48	無料塾寺子屋プロジェクトチーム	ツクイ土浦サービスセンター	1
21	柔道体験補助	附属幼稚園	4	49	学びの広場サポートプラン学習支援 ボランティア	水戸市立飯富小学校	2
22	遠足グループ活動支援	附属幼稚園	5	50	学びの広場 4・5年生 算数の学 習 支援	那珂市立五台小学校	0
23	放課後子ども教室学習指導	水戸市立赤塚小学校	2	51	生活科学区探検補助	水戸市立堀原小学校	0
24	英語の学習活動支援	日立市立大久保中学校	1	52	水泳指導補助	水戸市立堀原小学校	2
25	家庭訪問相談員	水戸市教育委員会 総合教育研究所	0	53	授業参観補助	水戸市立堀原小学校	1
26	スクール フェロー(SF)	茨城県県南生涯学習センター	3	54	学びの広場補助	水戸市立堀原小学校	0
27	(SF) 特別支援教育対象児童の支援	茨城県県南生涯学習センター つくば市立二の宮小	2	55	「チャレンジ・ザ・原始人」指導員	水戸市内原中央公民館	1
28	寄宿舎支援	茨城県立水戸聾学校 (寄宿舎)	9	56	夏のふれあい活動	附属小学校	2

No.	ボランティア名	募集先	参加人数	No.	ボランティア名	募集先	参加人数
57	学びの広場サポートプラン	水戸市立石川中学校	5	86	ヤングコール電話相談事業ボランティア養成講座	公益社団法人 いはらき思春期保健協会	5
58	学習支援	特定非営利活動法人 フリースクールトライアル	4	87	学習ボランティア	水戸市立国田小中学校	0
59	「学びの広場」サポートプラン	水戸市総合教育研究所 水戸市内公立中学校	5	88	Eタイム(外国語活動) 「英語ではなしてみよう!つたえてみよう!」	附属小学校	8
60	学習支援員	茨城県立結城第二高等学校	1	89	5歳児宿泊保育補助	附属幼稚園	2
61	学びの広場支援	水戸市立渡里小学校	6	90	陸上記録会練習補助	水戸市立堀原小学校	0
62	学びの広場	笠間市教育委員会	2	91	宿泊学習補助	水戸市立堀原小学校	0
63	ふくしまキッズ北海道	NPO 法人 ezorock	0	92	「渡里元気村」補助	水戸市立渡里小学校	22
64	夏休み学びの広場	下妻市立高道祖小学校	1	93	キッズワールド 2015	附属小学校	28
65	キャンパスエイド活動	茨城県立結城第二高等学校	0	94	教育ボランティア	ひたちなか市立高野小学校	1
66	第5学年 親子集会	附属小学校 第5学年 PTA	6	95	合唱音とり補助	附属中学校	0
67	音楽授業補助	附属中学校	6	96	合唱音とり補助	附属中学校	0
68	「学生支援員」	土浦市教育委員会 指導課	0	97	内原小学校ミニハイキング	水戸市立内原小学校	0
69	おもしろ理科先生・手作りラジオの制作サポート	つくばみらい市生涯学習課	0	98	筑波山登山	水戸市立渡里小学校	4
70	3歳児遠足補助	附属幼稚園	1	99	大宮公民館講座「気軽にクラシック」講師補助	常陸大宮市 大宮公民館	2
71	5歳児カレー作り補助	附属幼稚園	6	100	秋祭り「こどもの城」	県立児童センター こどもの城	1
72	英会話支援ボランティア	水戸市立新荘小学校	1	101	芋掘り補助	附属幼稚園	2
73	読み聞かせボランティア	水戸市立新荘小学校	2	102	研修委員会活動「児童への本の読み聞かせ」	水戸市立渡里小学校 PTA 研修委員会	3
74	五軒小放課後子ども教室	NPO ひと・まちなつとわーく	2	103	学区たんけん	水戸市立笠原小学校	0
75	土浦市特別支援学校親子遠足補助	土浦市特別支援学校 石岡地区 PTA	0	104	常陸大宮市子ども会 幹部研修会	常陸大宮市教育委員会 生涯学習課	8
76	第11回那珂市小学校陸上競技記録会	那珂市教育研究会	2	105	冬休み学びの広場	下妻市立高道祖小学校	1
77	通級児童生徒交流会(第1回)	茨城県立水戸聾学校	10	106	水戸ピッコロ少年少女合唱団	水戸ピッコロ少年少女合唱団	5
78	プレイパーク(子どもの冒険遊び場)	Play-Park 310	3	107	校内持久走大会の補助	水戸市立千波小学校	3
79	陸上記録会及び継走大会の練習指導補助	水戸市立城東小学校	1	108	遠足引率補助	水戸市立堀原小学校	1
80	納涼祭ボランティア	特別養護老人ホーム誠信園	1	109	風の子まつり補助	水戸市立堀原小学校	0
81	運動会ボランティア	県立友部特別支援学校	0	110	持久走大会補助	水戸市立堀原小学校	1
82	かさまキッズモール 2015	一般社団法人 笠間青年会議所	1	111	外国語ボランティア	水戸市立渡里小学校	4
83	5学年 宿泊を伴う共同生活学習	那珂市立五台小学校	4	112	キャンパスエイド活動	茨城県立結城第二高等学校	3
84	教育相談員	ひたちなか市教育委員会 指導課	0	113	キャンパスエイド活動	茨城県立鹿島灘高校	0
85	体育祭の救護	水戸市立見川中学校	4	114	Eスタ (イブニング・スタディ)	ひたちなか市立那珂湊中学校	0

No.	ボランティア名	募集先	参加人数
115	校内持久走大会の補助	水戸市立渡里小学校	9
116	合唱指導補助	附属小学校	9
117	クリスマス キャッスル	茨城県立児童センター こどもの城	2
118	プレイパーク(子どもの冒険遊び場)	Play-Park 310 (プ レイパークみと)	7
119	校内持久走大会の補助	水戸市立城東小学校	0
120	公開授業研究会補助	附属中学校	14
121	校内合唱コンクール運営補助	附属中学校	2
122	ウォークラリー大会 2016	あばれんぼキャンプ NPO 法人 野外遊び喜び総合研究所	0
123	通級児童生徒交流会(第2回)	県立水戸聾学校	14
124	ミニバスケットボール指導	茨大附属ミニバスケットボール スポーツ少年団女子	0
125	読み聞かせ会 ～子どもと一緒に遊 びましょう!～	学校法人リリー文化学園 リリー幼稚園	3
126	保健室補助	水戸市立城東小学校	1
127	のびのび with you 塾	特定非営利活動法人 ひたち NPO センター・with you	1
128	保健室補助	水戸市立常磐小学校	2
129	水戸市障害者グループ外出支援奉仕員	水戸市障害福祉課	0
130	理科授業等に係る学校支援ボランティア	水戸市立見川中学校	2
131	音楽科学習支援ボランティア	附属中学校	6
132	児童への本の読み聴かせ	水戸市立渡里小学校	3
133	保健室での活動補助	水戸市立渡里小学校	1
134	児童看護及び保健指導補助	水戸市立双葉台小学校	2
135	音楽集会・授業参観・懇談会時の児 童の看護	水戸市立堀原小学校	0
136	保健室での活動補助	水戸市立堀原小学校	2
137	保健室経営の補助 等	水戸市立河和田小学校	2
	合計		478

2. ボランティア活動に参加した学生の感想

1. 水戸市学校支援活動

○幼稚園

【運動会補助】

- ・園児たちの自由さが予想以上だった。先生たちの上手い”園児の対応のしかた”を実際に見ることができてよかった。男性の先生の少なさを知って”自分は大丈夫だろうか…”と不安になった。ハプニングも多少あったが、無事に終えることができてよかった。イベント事とはいえ、実際に園児や先生と関わることができ、みんなの生の様子を見ることができてよかった。

【発表会補助】

- ・子どもたちが頑張って歌や合奏や劇を発表している姿を見ることができ、こういった行事を作り上げることができるので、幼稚園教諭はいいなと思った。また、先生方と保護者の方々のコミュニケーションも身近に見ることができて勉強になった。子どもたちと先生の関わり方や話し方は、今回あまり見ることができなかったが、〇〇くん、〇〇ちゃんと名前を呼びながら子どもたちと関わってくる姿を目にしたので、1人1人子どもたちを見ていくことが大切なのだと学んだ。あと、ピアノの練習の必要性を感じた。
- ・活動に参加して、園児たちの発表がスムーズに行われるように、先生方は園児が発表している間も次のクラスの道具や配置を何度も入念に確認されていて、すごいと思いました。大きな道具を運んだり、細かい道具で忘れていた物はないか確認したりすることは大変だし、疲れるけど、園児の歌ったり踊ったりしている姿や笑顔を見ると、とても元気が出ると感じました。

○小学校

【校外学習の引率補助】

- ・実際に小学生とふれ合えることができ、大変貴重な経験となりました。子どもたちはとても素直で、人見知りをあまりしない子たちばかりだったので、注意したらすぐに直してくれて、普段から先生方のご指導が素晴らしいと思いました。1日中笑って楽しいボランティアでした。
- ・初めて学校ボランティアに参加し、今まで附属小・中学校を見学したことしかなかったのが、今回公立の小学校に行き、公立の小学生は附属の小学生よりも明るく活発な児童が多いと思った。一日の引率で来ただけなのに、たくさん話しかけてくれたり質問してきたりして、とてもかわいかった。先生方は、遠足先の方とのコミュニケーションや、公共の場での児童のマナーにすごく注意深くなっていて、先生方の指導の仕方も学ぶことができた。簡単なことしかお手伝いしていないが、現場の雰囲気を知ることができ、大きな学びとなった。

【運動会補助】

- ・小規模の学校だったため、子ども、先生方、地域の皆さんが一体となって運動会を作り上げていた様子が見られました。温かい雰囲気のもと、自分もスタッフの一員として活動に参加することができ、貴重な体験になりました。
- ・体験の始めに、小学6年生の担任の先生から「現場では、ただ待っていても誰も教えてくれない。自分から聞きに行ったり主体的に行動すること」の指導を受け、そのことばを意識しながら子どもたちと交わり、学校行事を久しぶりに考えることができま

した。ボールや大玉などの用具は高学年の子どもたちと共に運びましたが、しっかりしていることはもちろん動きも素早く、低学年の子どもたちと比べ成長の差を感じました。裏方である先生方からのアドバイスや体験談なども教えていただき、子どもたちのあふれるパワーを分けてもらったように感じています。

【PTA 主催のまつり補助】

- ・今回のボランティア活動を通して、子どもたちの自主性・行動力をまじかで見ることができました。困っている低学年への声かけをお願いされましたが、高学年の児童が進んで声をかけ、助けている姿が何度も見られました。これまでは、児童に手を差し伸べることはよいことだと思っておりましたが、自主性を信じて見守ることも必要だということに気づきました。
- ・班長さんである3年生でも、しっかり班の下級生をみてあげられる児童もいれば、どんだん共に進んでしまう児童もいて、色々な子がいるのだと思いました。しかし、私が思っていたよりも児童が自分たちでまわる順番やお昼を取りに行くタイミングなどを決めていて、先生方は見回りをしている姿がほとんどだったので自主性が尊重されていると感心しました。
- ・積極的に話しかけてくる児童、声掛けしても反応の薄い児童、様々な違いがあった。そのため、常にいろいろな場所に目を配ることが大切だと思った。この経験をこれから生かしていきたい。
- ・小学生の明るさや活発さに触れて、改めて教師への憧れを抱いた。また、学校行事ではかかせない PTA の方がたの協力やその運営の仕方をまじかで見ることができ、学ぶことも多かった。自分が教職についたら、保護者の方との信頼関係を築き、子どもたちと共に育てていけるよう努力したい。

【金管バンドの指導補助】

- ・なかなか見ることのできない小学校の素の姿に近いものを、クラブ活動を通してだど見たり感じたりすることができるので、とても楽しかったです。年間で10回あまりしか参加できなかったのが惜しかったと思います。たった12回の参加でしたが、児童と接することができたのに加え、小学校に行くと「先生」と呼ばれるのはとても貴重でよい経験になり感謝しています。

○中学校

【学習支援】

- ・クラスによっては特別な支援を必要としている生徒もおり、その生徒を中心に生徒全体の学習支援にあたった。週1回1時間の活動であるため、生徒とどのように距離を縮めたら良いか悩んだ。中学生という年齢を考えると、あまりうるさく声をかけるのではなく見守る姿勢で適切なタイミングでアドバイスをしよう心がけた。教科的な指導や特別な支援を必要としている生徒にどのようにアプローチするべきか、今後もボランティアを続けながら勉強していきたい。

【調理実習の学習支援】

- ・模擬授業では、実習系の授業を取り扱えないし、調理実習の授業を見学したりする機会もないので、今回一緒に教える立場に立たせてもらい、現場で体験できてとてもよい経験になった。1人で何十人もの生徒を見てまわるのは大変だし、子どもたちは楽しくなってしまう、話を聞いているようで聞いていないことが結構あったので、実習は指導の工夫がより必要なことを実感した。

2. 県内教育支援ボランティア活動

【学習支援】

学校にはさまざまな児童がいて、それぞれの成長のために多くの先生方が多様なアプローチをしていることが分かった。児童たちと過ごす時間はあっという間で、とても楽しいが、学ぶことも沢山ある。その児童が今どんなことを考えているのか予想しながら関わられるように今後もこのボランティアを続けていきたい。何よりも現場の先生方の働き方が自分の将来とても参考になる。

【運動会補助】

他の学年が競技をしている時に落ちついて座っていることができない子が多く、その指導がたいへんだった。児童の頑張っている姿はとてもキラキラしていて、見ていて元気になった。

【渡里元気村】

屋台を経営する側、また、食べ物売るという経験は今までなかったので、とても有意義な時間を過ごすことができました。手伝いとして渡里小の方々や主催様方と協力し、活動できたことはとても良い経験となりました。共に屋台を経営していたお母様方ともお話ができ、良い話を聞くことができ、よかったです。

【宿泊学習補助】

子どもたちから積極的に声をかけてくれて、すぐうちとけられたので、2日間楽しく過ごすことができました。突然泣き出してしまう子や、班での活動で、うまくみんなと協力しきれない場面も見られたので、子どもを指導するという点でも勉強になったと思う。

【水戸少年少女発明クラブ】

教育実習とちがい、ものづくり・工作が好きな小中学生と一緒に活動できた事はとても良い経験になった。また、指導員として来ていたものづくりのプロである方がたちにはコツや指導のやり方などを学ばせていただいた事に感謝をしたい。

【プレイパーク】

プレイパークは子どもたちが本当にやりたいように何でもしていい場であり、大人は見守るだけでダメなどとは言わない場でした。そこでは子どもたちは本当に自由にのびのび遊んでいたし、加えて、自由に思いっきり何をしても案外ケガもなくケンカもなく、子どもたちは皆ニコニコとしていて、子どもの可能性というか、力というものを強く感じました。心理臨床にいきる多くの学びを得ることができたように、私自身大変楽しく活動させて頂き、感謝しています。

【図書ボランティア】

パソコンを使った廃棄簿作成や図書原簿への該当図書の削除・記入など、事務的な作業を中心に活動してもらい、学校図書の管理方法を知ることができ、有意義なボランティア活動を行うことができたと思う。

保護者ボランティアの方々と一緒にいる機会が多々あり、大学生活ではあまり経験できない、保護者の方々とのコミュニケーションをとることができ、楽しみながら活動を進めていくことができたと思う。

【児童への本の読み聴かせ】

小学生に対し、読み聞かせを行うのは初めてだったが、どの児童も真剣に耳を傾けてくれ、とても嬉しかった。練習をしたので、思ったように読むことができた。PTAの役員の保護者の皆様の選書の意図など伺うことができれば、参考になると思った。

【ミニバスケットボール指導】

昨年度から参加させていただいており、子どもたちの成長を近くで見ることのできる、やりがいの多い活動だと感じている。自分の指導が合っているかどうか不安になることもあるが、一生懸命挑戦する子どもたちの姿に、勇気づけられる。試合ではなかなか力を発揮できず歯がゆい思いをすることもありますが、これからも携わり、更なる成長を見届けたいと感じている。

【通級児童生徒交流会】

ろう者と接する機会が、これまでにほとんどなかったので、初めてのことが多くとまどいもあった。失礼な対応をとっていないか不安だったが、子どもたちは明るく元気に接

してくれて、嬉しかった。手話を使いこなしている子どももいて、自分も手話ができる
とよかったと感じた。耳がきこえにくくても、何ら変わりのないふつうの子どもたちで
あり、元気な姿を見ることができ、ろう者の見方が変わった。

【児童看護及び保健指導補助】

活動名が児童看護ということなので、実際に児童に対して救急処置等を行うかと心配し
ていたが、実際は、児童をソファに移動させたり、養護教諭が不在の時に来室した児童と
会話したり、養護教諭が児童と接している姿を見学するような形だったので、とても勉強
になりました。実際に今の小学生の実態を知れたので、良かったです。また、活動の時間
や日数は自由なので、午前中だけや午後だけ、等と指定することができ、気軽に行けて良
いと思いました。教員の立場で学校を見れたので、学校の裏で先生方がどのように行動
しているか、頑張っているかを知ることができ、良い機会となりました。

【キャンパスエイド】

大学にいただけでは分からないことを実際の教育現場に入ることによって、身をもって知るこ
とが出来たのが 1 番の収穫です。フレックススクールという存在を知り、その特徴や生徒
の様子を知ることが出来たのもこのボランティアのおかげです。私は、特別支援教育専攻
であり、また、不登校についても関心があったので、結城二高での経験はとても勉強にな
りました。前期は、適応指導教室で実習を行っていたこともあり、それとの関連も見られ
たので、とてもよかったです。

【納涼祭ボランティア】

老人や子ども、家族連れ、他のボランティアの方々や施設の方々など、幅広い年代の、
多くの方々に関わることができ、楽しかった。また、特別なイベントということで楽しん
でいる施設に入居している方や働いている方が多く見受けられて、良い体験ができたと思
っている。

【高校部活動支援】

普段あまり接することができない高校生と一緒に活動することができ、とても良い経験
となった。今回の活動で改めて弓道を教えることの難しさを感じた。特に高校生は弓道を
始めて長くないので、どうしたら簡単に説明することができるのか、どのように言ったら
伝わるか、と悩むことが多かった。部員数が多くそれぞれ個性もあったため、それぞれに
合った指導することの大変さ、難しさ、大切さを実感することができた。

3-3 理科観察実験支援事業

水戸市教育委員会

1 事業の趣旨

小学校・中学校等における理科の観察・実験活動の充実を図るため、観察実験アシスタント（大学（院）生，退職教員，研究機関・企業等の研究者・技術者，地域人材など）が次の内容について支援を実施する。

- ①理科室及び理科準備室などの理科教育に使用する特別教室の環境整備
- ②理科の観察・実験活動に係る準備，調整，片付け
- ③その他，理科の観察・実験活動の充実に資すること

2 観察実験アシスタントの身分等

- ・ 理科支援員は水戸市の臨時職員となります。
- ・ 勤務時間は授業の打合せ，準備，授業支援，後片付け，理科環境の整備等を含みます。
- ・ 報酬は1時間当たり1,000円です。
- ・ 通勤手当は水戸市の旅費規定により支給されます。

3 派遣先学校の感想

- ・ 実験の際，学生が児童に分かりやすく補助してくれ，児童も毎回楽しみにしておりました。また，理科室の用具の場所を把握し，的確に活動してくれました。
- ・ 実験器具の用意や薬品の調合の準備，後片付けをしてもらい，とても助かりました。しかし，大学生ということもあり，時間の調整に難しさを感じました。また，生徒とのかかわり方や職員室での過ごし方についても確認が必要であると思いました。



【観察実験アシスタントの活動の様子】

平成 27 年度理科観察実験支援事業

	学校名	学年	学級数	時数（1学級あたり）	支援員の所属・学年
1	上中妻小学校	5年	1	40	教育学部・理科選修・3年
		6年	2	40	理学部・理学科・2年
2	下大野小学校	5年	1	40	教育学部・理科選修・4年
		6年	1	40	教育学部・理科選修・4年
3	大場小学校	5年	1	40	教育学部・理科選修・4年
		6年	1	40	教育学部・理科選修・4年
4	内原小学校	5年	2	40	理学部・理学科・2年
		6年	2	40	教育学部・人間環境・3年
5	赤塚中学校	1年	4	20	教育学部・理科選修・4年
		2年	4	20	教育学部・理科選修・3年
		3年	4	20	教育学部・理科選修・3年

3-4 附属学校園と教育学部の連携研究

附属学校園と教育学部の連携が求められています。茨城大学教育学部は 2003 年度より附属学校委員会を設置し、附属学校園と教育学部の情報交換と連携に努めてきました。2010 年 11 月には、教育学部研究連携推進委員会を立ち上げ、連携研究の体制を整備するとともに、よりよい連携のあり方を模索しながら実践を重ねてきています。

主な活動として、連携研究を推進するための研究補助制度「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の運用、連携研究の実施、附属学校フォーラムの開催について報告します。

1. 「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」制度と採択リスト 今年度も、附属学校と教育学部の教員の連携促進するために「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の公募を行いました。補助金額の予算が 1 年間で総額 20 万円でしたので、教育研究連携推進委員会で内容を審査し、5 件（1 件あたり 4 万円の補助）を採択としました。

2. 連携研究の把握

2010 年度以来、教育学部研究連携推進委員会規則に基づき、附属学校と学部との連携研究は活発に行われています。実践センターでは、双方の意向を考慮し、よりよい形で実施できるようにと連絡調整に努めています。内容的には、(1)大学・学部の教育研究への協力(2)大学・学部と附属学校の共同研究があります。

(1) 大学・学部の教育研究への協力 大学教員の研究に対する附属学校の協力とは、大学・学部教員が研究の一環として行う調査や研究授業などに、附属学校が協力した場合などです。研究と実践を結びつけるためには欠かせない連携研究の場となっています。

(2) 大学・学部と附属学校の共同研究 附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校では、研究発表会を実施しています。

そこでは、大学・学部と附属学校との共同研究の一端が公開されます。研究の方向性や教材研究、授業づくりなどについて共同に研究していけることは、それぞれの持つ力を出し合い、高め合う貴重な場となっています。

3. 附属学校フォーラムの開催

第1回目を 2012 年 2 月 10 日に開催して以来、今年度で第 5 回目となる附属学校フォーラムを、2016 年 2 月 27 日に開催しました。教育学部附属学校委員会と教育学部研究連携推進委員会、教育実践総合センターの 3 者の協力により、計画・運営されているものです。

平成 25 年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織	研究タイトル
宇陀 定司	附属小学校 附属中学校	数学教育 根本 博・小口祐一 附属小 飯村高志（代表） 附属中 宇陀定司（代表） 水戸管内 教育事務所指導主事 影山 敬久（代表）	算数・数学科授業の創造～実践指導モデル（案）の作成
横掘 冴子	附属小学校 附属中学校	理科教育 山本 勝博 附属中 船山 知暁 附属小 横掘 冴子 見川中学校 五十川 淳一	小・中学校教員と大学教員の連携を図り、情報交換と授業力向上を目指した「いばらき理科授業づくりML」の構築と運用
長谷川 秀子	附属中学校	養護教諭 石原研治・瀧澤利行・斉藤ふくみ・廣原紀恵・青柳直子 附属中 長谷川秀子	iPS 細胞による次世代再生医療を促した保健教育の新領域創出を指向した中学生の iPS 細胞の知識・関心・理解
		保健体育教室 日下裕弘、渡邊将司、篠田朱音、吉野聡	

吉野 聡	附属小学校 附属中学校	スポーツコース 巽申直、勝本真、加藤敏弘 健康コース 松坂晃、富樫泰一、上地勝 附属中学校 木谷晋平、前堀景 附属小学校 小林克行、横山由里恵、湯瀬英寿	体育・保健体育教育における教育実習スタンダード策定の試み
------	----------------	---	------------------------------

平成 26 年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織		研究タイトル
廣木 聡	附属特別支援学校	附属特別支援学校 附属特別支援学校 国語教育	廣木 聡 小学部教員 鈴木 一史	「児童生徒の心的安定、人間関係の深まり」のための ICT 活用モデルの開発
佐藤 裕紀子	附属小学校 附属中学校	家庭教育 附属中 附属小	佐藤裕紀子・塩谷敬子（渡里小学校・現職派遣） 高崎 昌己 中山 香理	家庭科の基礎・基本の定着を目指す施設分離型小中一貫教育の提案
猪井 新一	附属小学校	英語教育 附属小学校	猪井 新一・齋藤 英敏 （1年）小島貴志・佐々木恵美子（2年）飯村高志 （3年）桔梗谷 美代子（4年）湯瀬 英寿 （5年）比佐 中（6年）栗原 裕弥	小学校外国語活動をより推進していくための実践的研究
工藤 雄司	附属中学校	技術教育 附属中学校 技術職員	工藤 雄司 山崎 修 小祝 達朗	「技術科における巧緻性を育む新素材を用いた加工学習教材の開発」

平成 27 年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

研究代表者	連携先	研究組織		研究タイトル
高野 恵美子	附属幼稚園	障害児教育 理科教育教室 附属幼稚園	新井 英靖 大辻 永 高野 恵美子	幼児が自然に対する認識を深める保育活動の研究
杉本 憲子	附属小学校	附属小学校 学校教育教室	野村 仁、安田 和人、新妻 宏章 生越 達、三輪 壽二、杉本 憲子	児童相互の学び合いを生かした授業のあり方に関する研究 —附属小学校・複式学級の授業における学び合いの場の研究を通して—
遠藤 貴則	附属特別支援学校	附属特別支援 学校臨床	遠藤 貴則、滑川 昭、廣木 聡 金丸 隆太	配慮が必要な児童生徒が在籍する小中学校への支援モデルの開発
齋藤 英敏	附属中学校	英語教育教室 附属中学校	齋藤 英敏、猪井 新一 小沢 浩、増田 浩一、小松崎 美重	英語ディスカッション指導方法の検討
青柳 直子	附属幼稚園	教育保健教室 保健体育教室 附属幼稚園	青柳 直子 渡邊將司 高橋 雅子	幼児の健康的な生活習慣の形成を目指す睡眠改善プログラムの提案

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書

研究代表者 所属 茨城大学教育学部附属幼稚園
氏名 高野 恵美子

研究タイトル
幼児が自然に対する認識を深める保育活動の研究

研究組織 (所属・氏名)
障害児教育教室(幼児教育部会チーフ)・新井英靖
理科教育教室・大辻永
附属幼稚園・高野 恵美子

研究の成果

毎年春から夏にかけて虫かごや虫取り網をもって夢中になって遊ぶ子どもたちの姿が見られる。捕まえた虫をじっと見つめ動く様子に興味や関心を示す姿は、どの年齢の子どもにもよく見られることである。さらに探究心が膨らむようにと、年長児のクラスにネイチャースコープを導入したところ、ネイチャースコープから見える昆虫の大きさに驚いたり模様や形の違いがあることに気付くだけでなく自然物(植物や石、木ぎれなど)にも関心を寄せ、よく見てみよう詳しく調べてみようとする研究所の遊びに発展するなど観察力が高まり学びにつながった。

本園の27年度の研究テーマ「子どもと共に遊びをつくるー自然との触れあいを通してー」にもとづいた研究を深め、充実させることができた。

補助金の使途 (簡単に記入してください。)

NIKON ネイチャースコープ ファーブルミニ 38,880円
Zigwin 双方向観測拡大鏡
木の実あなあけドリル
木の実あなあけ用固定台

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書

研究代表者 所属 教育学部学校教育教室
氏名 杉本憲子

研究タイトル

児童相互の学び合いを生かした授業のあり方に関する研究
—附属小学校・複式学級の授業における学び合いの場の研究を通して—

研究組織 (所属・氏名)

附属小学校 野村 仁・安田 和人・新妻 広章
学校教育教室 生越 達・三輪 壽二・杉本 憲子

研究の成果

本研究では、児童の学び合いの具体的なあり方やその充実を図る授業展開・指導方法等に着眼し、附属小学校3・4学年複式学級における授業研究を行なった。本研究に際して研究打ち合わせを行い、異学年の児童が共に学習する複式学級の授業の特質やその学び合いの場としての可能性・課題等について相互の理解を図った。その上で、複式学級での国語、図画工作を中心とした授業の観察を通して、異学年の児童相互の学び合いの実際について研究することができた。国語の授業では、学習課題の把握および学習のまとめの場面では両学年一緒に、学習材の読み取りの場面では学年ごとに児童が主体となって話し合う活動が展開され、学習内容に即した効果的な活動の設定が行なわれた。学年別の学習活動の後に、3年生と4年生の学習材を比べる場面を設けることで、文章構成や記述の仕方の特徴や共通点等の理解を深めることにつながっていた。図画工作の授業では、異学年の児童で編成された3～4名のグループで、互いの作品について質問したり、制作の過程で関わったりしながら、自分の作品のイメージを具体化し、制作に取り組む様子が見られた。各学年の児童の豊かな発想にもとづく作品の構成や制作過程が観察された。教科や学習内容の違いによらず、いずれの授業においても4年生が3年生にアドバイスをするなど異学年間の関わり合いが生きる場面が見られた。

また本研究を通して、異学年の児童相互の学び合いという側面のみでなく、例えば授業者が一方の学年を中心に指導をしている場合などに、児童が協力しながら授業を進める体制がつけられていることや、授業者や児童が互いの意見やつぶやき等を聞き、反応し合いながら授業が進められていることの重要性が改めて把握された。

補助金の使途 (簡単に記入してください。)

- ・ 記録保存用メディアの購入
- ・ 授業で使用する資料掲示用文具の購入

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書	
研究代表者 所属	教育学部附属特別支援学校 氏名 遠藤貴則
研究タイトル	配慮が必要な児童生徒が在籍する小中学校への支援モデルの開発
研究組織 (所属・氏名)	教育学部附属特別支援学校 遠藤貴則 教育学部附属特別支援学校 滑川 昭 教育学部附属特別支援学校 廣木 聡 教育学研究科学校臨床心理専修 金丸隆太
研究の成果	<p>①本校に研究依頼があった茨城町立長岡第二小学校と連携して実践研究を行なった。選定の理由としては、特別な支援を要する児童の割合が高いこと、それに対して特別支援教育の体制の確立がまだ不十分であり、インクルーシブ教育システム確立のための本校のセンター的役割の必要性を強く感じたことである。</p> <p>②5 月より 6 回連携校を訪問して、連携研究を実施した。大まかな内容は、特別支援教育の基礎的な理解を図る講話、実態把握の方法、ケース会の手順、授業研究及び研究協議会、研究のまとめである。</p> <p>③支援を要する児童の適切な実態把握については、実態把握表の作成及び活用の仕方の連携研究を行なった。その際に、児童の様子をデジタルカメラ等で撮影した写真や動画で実際に確認することで、障害特性や不適応行動の背景及びその教育的な対応の理解も深めることができた。また、実態に応じて TK 式診断検査を実施して、多角的な実態把握を行なった。</p> <p>④授業研究については、授業モデルを作成して、そのモデルを元に授業実践を行なった。授業のポイントとなる場面や象徴的な児童の活動の様子を写真や動画に撮影して、研究協議会で活用することで授業改善に生かすことができた。連携校の状況により研究協議会の場所や時間、方法は様々であり、臨機応変な対応を迫られる場面も多かったが、プロジェクター機能を最大限活用することで、効果的な運用につなげた。実際の画像での振り返りながらの研究協議は、連携校の教員に対する理解を深めるために効果的であった。</p> <p>○まとめ 診断検査やデジタル教材を積極的に活用することで、本校のもつ専門性と連携校の教員の理解をうまく繋げながら、連携研究を行なうことができた。連携研究の成果である「実態把握表」や「授業モデル」、「ケース会の手順」等、連携校の今後につながる成果があげられた。</p>
補助金の使途 (簡単に記入してください。)	ポータブルプロジェクター(40,000 円)

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書	
研究代表者	所属 英語教育 氏名 齋藤英敏
研究タイトル	英語ディスカッション指導方法の検討
研究組織	(所属・氏名) 英語教育教室・齋藤英敏、猪井新一 附属中学校・小沢浩、増田浩一、小松崎美重
研究の成果	<p>本研究は、中学生の英語ディスカッション指導方法の提案のために、指導課程の記述をケーススタディとして行い。記述には、観察、教師自身のジャーナル、インタビュー、アンケートなどを使用し、生徒のディスカッション力変容を測定するために、指導の事前・事後のディスカッションをタブレットを使用してグループごとに録画して分析するためのタブレット用マイクを購入した。率直にいうとおそらくタブレット自体の問題から、マイクがあっても音声録音に難があるため、結局ビデオカメラを使用し別室で事前テスト用データの撮影を行った(もとの案では教室内で一斉にやる予定であった)。一回目の撮影後、新しい別のメーカーのタブレットが購入されたのでそちらを今後利用する可能性はまだ残されてはいる。現段階では事後テストはまだ行っていない(三月に行う予定)ので、学習者の変容はディスカッション自体からは確認できていない。しかし、観察、インタビューなどから言える点は二点ある。一つは活動への慣れである。繰り返し、異なったメンバーで同様の活動を行うことは重要である。二点目はフィードバックである。限られた英語力を屈指して、ディスカッションを行うには様々なコツやリソースが必要で、学習者にそれをきづかせるには教師や友人からのフィードバックが欠かせない。今後事後テスト実施に向けてマイクとタブレットの相性を確認し、一年目の研究を総括する予定である。</p>
補助金の使途	(簡単に記入してください) タブレット用マイク 38,064 円 以上。

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書

研究代表者 所属 茨城大学教育学部教育保健教室
氏名 青柳直子

研究タイトル

幼児の健康的な生活習慣の形成を目指す睡眠改善プログラムの提案

研究組織 (所属・氏名)

茨城大学教育学部教育保健教室 青柳直子
茨城大学教育学部保健体育教育教室 渡邊將司
茨城大学教育学部附属幼稚園 高橋雅子

研究の成果

【1】目的 本研究では附属幼稚園と連携し、幼児の休日を含む睡眠や食事などの生活習慣、精神的・身体的健康度、身体活動について実態調査を行い、生活習慣の改善のための介入の手がかりを得ることを目的とした。

【2】研究方法

附属幼稚園児 107 名とその養育者を対象として、以下の調査を実施した。

(1)2015 年 6 月:プレ調査(生活習慣に関する質問紙調査)

(2)2016 年 1 月:本調査 1)質問紙調査:平休日の生活習慣および心身の健康状況について、自記式にて回答を得た。

2)身体活動量調査:対象は年中・年長児とし、小型活動量計を用いて連続 10 日間測定した。

【3】得られた研究成果 平日の起床時刻や朝食開始時刻の規則性は高い一方で、就寝時刻や夕食開始時刻は不整な場合が多く、これらが降園後の習い事などの生活行動に大きく影響を受けている様子がうかがえた。平日はほとんどの子どもが毎日朝食を摂っていたが、その半数は自ら進んでではなく保護者に促されて食べている様子がみられた。毎朝排便できている子どもは約 2 割、降園後午睡をすることがある子どもは 3 割であった。子どもと養育者の休日の起床時刻と朝食開始時刻には、平日と比較すると約 1 時間の遅延がみられ、休日は養育者とともに遅起きとなっている様子がうかがえた。身体活動(1 日の総カロリー、総歩数)は、平日と比較して休日では大きく減少しており、減少度は年中児でより大きいことが分かった。

得られた研究成果は養育者対象の子育て講座などで報告し、子どもの生活を捉え直したり、養育者の意識変容を促したりするための啓発活動の資料として活用した。本成果をもとに、規則的な睡眠習慣を基盤とする生活習慣の形成のための介入活動を今後も推進していきたい。

補助金の使途

用紙・印刷関連費(調査票, 報告書, 保護者用リーフレット), 図書費(調査票作成関連), 学会参加費

平成 25 年度 学部・附属学校の連携の届け 一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	岡部 千草 教育実践総合センター	授業実践	小	大学院授業「国語科教育学演習Ⅱ」の実践化の場として4年生対象の授業を行うとともに、実際の児童の学習状況把握のため。	H25.5.20	岡部千草(授業者) 学生5名、院生1名、現職派遣院生1名
2	渡邊 将司 保健体育	研究	小	児童の体力に関連する誕生日と身体活動量の影響	H25.6 下旬～ H25.7 月上旬	保健体育4年1名
3	渡邊 将司 保健体育	研究	小	小学校1年生の体格、体力、身体活動の係数性を明らかにする	H25.6 下旬～ H25.10 下旬	千葉工業大学・引原有輝 ほか5名
4	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	ダウン症児の発話明瞭度について、ひらがな文字の習得と発話明瞭度の関連について検討する	H25.7.1～ H26.3.31	勝二博亮 特別支援教育コース4年1名
5	斉藤 ふくみ 教育保健	研究	小	学校現場での子どもたちの食に関する実態や、それに即した食育について、養護教諭や栄養教諭の実践、連携の面について質問紙調査を行い研究する。	H25.9.1～ H25.9.30	斉藤ふくみ(指導教員) 養教4年1名
6	勝本 真 人間環境	研究 授業実践	中	バレーボールのアンダーハンドパスのドリル教材開発。	H25.10.21～ H25.11.15	勝本真 院2年
7	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の意思決定過程に関する脳内処理過程を明らかにする。	H25.11.25～ H25.12.6	勝二 博亮 院2年生1
8	吉野 聡 保健体育	研究	小	小学校4年生及び6年生を対象に、ゴール型の技能習得状況について調査を行う	H25.12.9～ H25.12.20	吉野聡 学生1名
9	吉野 聡 保健体育	研究	中	中学2年生を対象に、ゴール型の技能習得状況について調査を行う	H25.12.9～ H25.12.20	吉野聡 学生1名
10	野中 美津枝 家庭	研究 授業実践	小	卒論の研究テーマで「デジタル教材の授業研究」を実施するため	H25.12.20～ H27.3.31	学生1名、野中美津枝 附属小学校 中山
11	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の走・投運動動作に関する特徴を明らかにする。	H25.12.11～ H25.12.12	勝二 博亮 特別専攻科2名
12	巽 申直 人間環境	授業実践	中	修論研究のため 剣道授業実践	H25.11.7～ H25.12.9	院生1名
13	山崎 修 附属中学校	授業実践	中	技術・家庭科(技術分野)の材料と加工に関する技術の内容についての授業を第二学年のクラスで実践	H25.12.20	院生2年生1名 附属中学校 山崎修
14	野中 美津枝 家庭	授業実践	中	大学院生の修論のため授業実践 「魚の調理上の性質を知ろう」	H25.12.18～ H25.12.20	野中美津枝 院生3名
15	萩谷 正教 附属中学校	その他	中	附属中学校の公開授業研究会にボランティアとして学生に参加させることで、研究会の運営に携わらせるだけでなく、公開授業・分科会を参観させ、将来教員となる資質を高める。	H25.11.30	教育学部学生 国語教室3名 英語教室1名 家庭教室2名 技術教室4名 養護教室5名
16	高橋 文子 附属中学校	研究	中	茨城大学生のデッサン指導力向上と附属中学生のデッサン力向上のため集中授業実践 「デッサン指導実践演習」	H25.12.25～ H25.12.27	美術選修学生・院生4名 附属中学生 3年生2名 2年生7名 1年生6名
17	高橋 文子 附属中学校	研究	中	美術教員を目指す1年生の意識向上と授業研究	H25.12.11	美術選修1年生14名
18	高橋 文子 附属中学校	研究	中	美術教員を目指す2年生の意識向上と授業研究	H25.11.7	美術選修2年生14名

19	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	養護実習事前指導のための演習科目「養護 実地研究入門」の講義と、講義に連動した学 校参観	H26.1.9, H26.1.27	養護教諭養成課程 2 年次 講義 32 名 学校参観 25 名
20	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	定期健康診断における補助	H25.4.11 H25.4.12	養護教諭養成課程 4 年次 2 名
21	長谷川 秀子 附属中学校	その他	中	附属中学校 1.3 年宿泊共同学習における補助	H25.7.8~11 H25.7.16~17	養護教諭養成課程 4 年次 1 名 院・養護教育専攻 2 年生
22	渡邊 将司 保健体育	研究	小	小中学生の身体活動と心の健康との関連を明 らかにする。	H26.2 月上旬	同志社大学 石井好二郎教授 ほか 9 名
23	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	障害理解・教員の授業スキルの向上 講話「国語、算数・数学の体系性と指導方法」	H25.5.2	障害児教育 新井英靖 附属特別支援学校教員 31 名 近隣小学校教員 3 名
24	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	授業スキルの向上(オープンスクールに向けて) 授業観察、指導助言、授業についての研修会 実施	H25.7.1~ H25.7.23	障害児教育 東條吉邦 勝二博亮 新井英靖 附属特別支援学校教員 31 名
25	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	障害理解、地域の幼稚園、小・中学校、特別 支援学校におけるセンター的役割、指導スキ ルの向上	H25.8.7~ H25.8.8	障害児教育 新井英靖 附属特別支援学校教員 8 名 (公開講座参加者 31 名)
26	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	障害理解、地域の幼稚園、高等学校における センター的役割 公開講座「教育相談研修講座」の実施	H25.8.22~ H25.8.23	大学院教育学研究科 金丸隆太 附属特別支援学校教員 31 名 (公開講座参加者 30 名)
27	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	授業スキルの向上、本校の研究活動における 共同研究(公開研究会に向けて) 授業観察、指導助言、授業についての研修会 実施、公開研究会開催	H25.9.1~ H25.12.10	障害児教育 東條吉邦 勝二博亮 新井英靖 保健体育 渡邊将司 附属特別支援学校教員 31 名 (公開研究会参加者約 70 名)
28	増子 和男 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育の理解促進 講話「教科の特性を生かした学習支援のあり 方(算数)」	H26.1.21	障害児教育 新井英靖 (市町村教育委員会、幼稚園 小学校、中学校 60 名)
29	鈴木 一史 国語教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 3 名
30	村山朝子, 木村勝彦 社会科教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 3 名
31	小口 祐一 数学教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 3 名
32	山本 勝博 理科教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 3 名
33	藤田 文子 音楽教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 1 名
34	金子 一夫 美術教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 1 名
35	巽 申直 保健体育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 2 名
36	工藤 雄司 技術教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 1 名

37	西川 陽子 家庭教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 1 名
38	猪井 新一 英語教育	研究	中	平成25年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H25.11.30	附中教員 3 名
39	橋浦 洋志 昌子 佳広 国語教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 2 名
40	村山 朝子 木村 勝彦 社会科教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 1 名
41	小口 祐一 算数	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 1 名
42	山本 勝博 大辻 永 理科教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 1 名
43	藤田 文子 音楽教育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 1 名
44	向野 康江 図画工作	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 1 名
45	渡邊將司 体育	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 1 名
46	生越 達 こころ	研究協議講師	小	公開授業研究会の研究協議会講師として	H26.1.31	附小教員 1 名
47	木村 勝彦 社会科教育	その他	小	「社会科教育学入門」の一環として授業を参観 する。	H26.2.12	社会選修 1 年生 24 名 引率者 木村勝
48	向野 康江 美術教育	研究	小	美術教員を目指す意識向上と授業研究のため 授業参観を行い、その後学習案におこす	H26.1. H26.2.12	美術教育 1. 2 年生全員 附 属小 安田和人, 住谷 浩
49	橋浦 洋志 国語教育	研究	小	「ことばの力」演習 言葉の在り方について実 践を通して考案する	H26.1.22	教員養成課程・養護教諭養成 課程 2 年次全員 授業担当者
50	東條 吉邦 障害児教育	研究	特	知的障害児における見かけの泣きの理解に ついて	H25.9.9～ H25.10.18	障害児教育 東條吉邦 学生 1 名

平成 26 年度 学部・附属学校の連携の届け 一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	渡邊将司 保健体育	研究	幼	附属幼稚園児の身体活動量および体力を調査する	H26.6～ H26.11.6	附属幼稚園長 村山 朝子 附属幼稚園副園長 塩田 智代
2	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	ダウン症児の発話明瞭度について、ひらがな文字の習得と発話明瞭度の関連について検討する。	H26.6.5～ H27.3.31	特別支援教育 4 年 1 名
3	大辻 永 理科教育	授業実践	小	附属小学校 5 年生 3 クラスに対し、「ひびきの時間」において出前授業を行う。	H26.11.14	附属小学校(5 年)海老名 育子
4	佐々木 忠之 情報文化教室	授業実践	小	図工教材製作における技術的支援	H26.9～ H27.3	技術教育教室 工藤雄司・野崎英明 附属小学校 安田和人
5	高橋 文子 附属中学校	授業実践	中	身体性・共同性を重視した中学校の陶芸制作・鑑賞の題材開発	H.26.10.5～ H26.12.16	美術教育教室 島 剛 附属中 3 年生 157
6	佐藤 隆 附属中学校	研究	中	教育の新領域として、「ips 細胞を用いた新しい再生医療社会を真に理解し迎えるための教育プラン」の茨城大学モデルをつくり全国に発信する。	H26.4.1～ H27.3.31	国語教育 鈴木一史 理科教育 大辻永 教育保健 瀧澤利行 廣原紀恵 石原研治 人間環境 郡司晴元
7	増田 浩一 附属中学校	授業実践	中	お互いに自分の住んでいる地域・文化を紹介しよう	H26.10.15 H26.10.22	交換留学生 7 名
8	増田 浩一 附属中学校	授業実践	中	パキスタンからの留学生との授業 英作文のアドバイス、スピーチ	H26.12.1～ H26.12.24	教育研修生
9	増田 浩一 附属中学校	授業実践	中	附属中生の英語授業において Team Teaching の実践	H27.2.10	教科教育専攻 英語教育院生
10	船山 知暁 附属中学校	研修	中	平成 26 年度理科授業づくり研究会「放射線研修」附属中学校・茨城大学・公立学校の教員で、授業をよりよくするために研修を行う	H26.5.10	理科教育 大辻永 山本勝博 実践センター 五島浩一 附中教員 4 名 院生 4 名
11	田中 正彦 附属中学校	授業実践	中	大学 1 年生に対して授業を公開し、中学校の社会科学授業の展開、指導案についてなどを解説する。	H27.2	社会科学教育専修 1 年次 25 名
12	田中 正彦 附属中学校	その他	中	大学 2 年生対象に教育実習についての事前指導。授業の作り方。指導案の書き方などを講義する。	H26.7.18～ H26.7.25	社会科学教育専修 2 年次 20 名
13	田中 正彦 附属中学校	研究	中	附属中学校公開研究会にむけての授業、指導案検討	H26.10～ H26.11	社会科学教育 村山朝子 附中教員 2 名
14	開田 晃央 附属中学校	研究	中	中学校国語科の研究推進・公開授業の授業づくり研究等	H26.4.1～ H27.3.31	国語教育 鈴木一史 附中教員 1 名
15	開田 晃央 附属中学校	研究 授業実践	中	授業の実践力を向上させる。3 か月に 2 度授業 実践、教材研究を持ち寄り、発表する。	H26.4.1～ H27.3.31	国語教育 鈴木一史 附中教員 1 名 公立学校教諭 10 名
16	高橋 文子 附属中学校	授業見学	中	美術専修授業「美術教育授業研究Ⅲ」において、美術教育を目指す意識向上と授業研究のため	H26.10.23	情報文化 島田裕之 美術専修 2 年生 14 名
17	高橋 文子 附属中学校	授業見学	中	美術専修授業「美術教育授業研究Ⅰ」において、美術教育を目指す意識向上と授業研究のため	H26.12.9	情報文化 小泉晋弥 美術専修 1 年生 10 名
18	片山 美千恵 附属中学校	研究	中	四附属学校園 養護教諭共同研究 「養護」に関する質的研究	H26.4.1～ H27.3 末	教育保健 斉藤ふくみ 四 附属学校園養護教諭 4 名

19	椎名幸由紀 附属特別支援学校	実践研究	特	小学部における「感じる・考える・伝え合う 授業づくり」の実践研究	H.26.4.1～ H27.3.31	障害児教育教室 勝二博亮
20	小松大介 附属特別支援学校	実践研究	特	中学部における「感じる・考える・伝え合う 授業づくり」の実践研究	H.26.4.1～ H27.3.31	障害児教育教室 新井英靖
21	茂木武啓 附属特別支援学校	実践研究	特	高等部における「感じる・考える・伝え合う 授業づくり」の実践研究	H.26.4.1～ H27.3.31	障害児教育教室 東條吉邦
22	渡邊鮎美 附属特別支援学校	実践研究 公開研究会	特	「感じる・考える・伝え合う 授業づくり」体育・保健体育での実践研究と成果の公開	H.26.4.1～ H27.3.31	体育教室 渡邊将司 こども教育宝仙大学 松原豊 県内外の教員 140 名
23	小室美歌子 附属特別支援学校	公開講座	特	人間関係を深めるムーブメントの実践研究と成果の公開	H.26.8.5～6	障害児教育教室 新井英靖 教員 10 名参加
24	長瀬敦 附属特別支援学校	実践研究	特	知的障害児教育における ICT 機器活用の実践研究	H.26.5.1～ H27.3.31	国語教室 鈴木一史
25	椎名幸由紀 附属特別支援学校	公開講座	特	幼稚園、高等学校における教育相談に関する実践研究と成果の公開	H.26.8.12 H.26.8.29	学校臨床心理 金丸隆太 幼稚園教員 25 名 高等学校教員 15 名
26	廣木聡 附属特別支援学校	実践研究 研修会	特	小中学校特別支援学級における ICT 機器活用の実践研究と成果の公開	H.26.6.1～ H27.3.31	学校臨床心理 金丸隆太 県内教員 90 名
27	茂木武啓 附属特別支援学校	実践研究	特	知的障害児の準備運動に関する実践研究と成果の公開	H.26.5.1～ H27.3.31	体育教室 渡邊将司
28	和田美穂 附属特別支援学校	公開講座	特	知的障害児の国語教育に関する考察と成果の公開	H26.7.23	国語教室 鈴木一史 県内教員 40 名参加
29	茂木武啓 附属特別支援学校	公開講座	特	知的障害児の体育に関する考察と成果の公開	H26.7.23	体育教室 渡邊将司 附属特別支援学校教員 10 名 県内教員 20 名
30	勝二博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の肥満に関する検討	H26.10.1～ H27.3.31	特別専攻科 学生 1 名 特別支援学校 内田清香
31	勝二博亮 障害児教育	研究	特	知的障害児の柔軟性に関する調査研究	H26.10.1～ H27.3.31	特別専攻科 学生 1 名 特別支援学校 藤田宏樹 茂木武啓
32	東條吉邦 障害児教育	研究	特	障害児における自己の状態予測に関する研究	H26.6.5～ H27.3.31	特別支援教育 4 年 学生 1 名
33	勝二博亮 障害児教育	研究	特	ダウン症児の発話明瞭度について、ひらがな文字の習得と発話明瞭度の関連について検討する	H26.6.5～ H27.3.31	特別支援教育 4 年 学生 1 名
34	廣木聡 附属特別支援学校	公開講座	特	「教科指導における教材・教員開発のポイント」公開講座	H.26.5.7	障害児教育教室 新井英靖 附属特別支援学校教員 30 名 近隣学校園の教員 20 名
35	渡邊鮎美 附属特別支援学校	公開講座	特	「エピソード記録を通して子どもを質的に見つめる」公開講座	H.26.6.4	障害児教育教室 新井英靖 附属特別支援学校教員 30 名 近隣学校園の教員 20 名
36	鈴木 一史 国語教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 3 名
37	村山 朝子 社会教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 3 名
38	根本 博 数学教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 3 名
39	山本 勝博 理科教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 3 名
40	田中 健次 音楽教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 1 名

41	金子 一夫 美術教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 1 名
42	日下 裕弘 保健体育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 2 名
43	工藤 雄司 技術教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 1 名
44	野中 美津枝 家庭教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 1 名
45	齋藤 英敏 英語教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 3 名
46	生越 達 青柳 路子 学校教育(道徳)	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 5 名
47	杉本 憲子 学校教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 5 名
48	小川 哲哉 学校教育	研究 授業実践	中	平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H26.11.4 H26.11.29	附中教員 6 名
49	村山 朝子 附属幼稚園	授業実践	幼	柔道体験により、日本の文化に触れ、身体を 意識しながら動かしたり、礼儀を学ぶ機会とする。	H26.5.19 ～6.16	保健体育 尾形敬史(講師) 附幼5歳児と保護者
50	村山 朝子 附属幼稚園	事例研究	幼	保育参観、事例検討会等を通して支援の方向 性の検討	H26.5.13 ～H26.7.7	障害児教育 新井英靖(講師) 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教 育 丸山広人 教育保 健 青柳直子 附幼全 教諭
51	村山 朝子 附属幼稚園	研修会	幼	遊びやすい保育環境やエピソード記録の 書き方についての研修	H26.4.30 H26.7.25	障害児教育 新井英靖(講師) 附幼全教諭
52	村山 朝子 附属幼稚園	研究会	幼	講話 「子どもの豊かな活動を生み出す環境づくり」	H27.2.10	障害児教育 新井英靖(講師) 研究会出席者約 200 名 附幼全 教諭
53	村山 朝子 附属幼稚園	研究会	幼	「子どもと共に遊びをつくる ー環境を見つめ直してー」 分科会の司会・グループ協議のまとめ	H27.2.10	教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教 育 丸山広人 教育保 健 青柳直子 研究会 出席者約 200 名 附幼全教諭
54	村山 朝子 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「思春期を見据えた幼児期の課題」	H26.6.30	教育学部長 生越 達(講師) 附幼全保護者
55	村山 朝子 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「造形遊びから造形活動へ～ 造形ワークショップに見る幼児の創造性」	H26.9.19	美術教育 片口直樹(講師) 附幼全保護者
56	村山 朝子 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「学びの芽をはぐくむ自然体験」	H27.2.2	教育実践総合センター 五島浩一(講師) 附幼全保護者
57	木村 勝彦 社会科教育	授業参観	小	「社会科教育学入門」の一環として社会科の 授業の参観	H27.2.19	社会科選修 1 年次 24 名
58	橋浦洋志 昌子佳広 国語教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校国語科教諭

59	村山朝子 木村勝彦 社会科教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校社会科教諭
60	根本博 数学教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校算数科教諭
61	大辻 永 理科教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校理科教諭
62	田中健次 音楽教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校音楽科教諭
63	大辻 永 理科教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校理科教諭
64	田中健次 音楽教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校音楽科教諭
65	向野康江 美術教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校図画工作科教諭
66	石島恵美子 家政教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校家庭科教諭
67	日下裕弘 大 津展子 保健 体育教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校体育科教諭
68	猪井新一 英語教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校Eタイム部員教諭
69	生越達 青柳路子 学校教育	研究	小	公開授業研究会講師	H27.1.30	附属小学校こころの時間研究部員
70	島田裕之 美術教育	授業見学	小	美術教育授業演習Ⅲ 授業参観	H26.12.11	附属小学校 安田和人 美術選修2年 14名
71	向野康江 美術教育	授業見学	小	美術教育授業研究Ⅰ 授業参観	H27.2.4	附属小学校 高野敦史 美術選修1年 13名
72	野中美津枝 家政教育	実践研究	小	卒論の研究テーマで「デジタル教材の授業研 究」を実施するため	H26.10.15	附属小学校 中山香里 家政選修4年 田中菜帆
73	橋浦洋志 国語教育	授業実践	小	「ことばの力」実践演習 ことばの力につい て実践を通して考察する	H27.1.21	学校教員養成課程・養護教諭養成課程 2年生全員
74	松本稔子 附属小学校	講師	小	「音楽集会」指導講評	H27.2.16	音楽教育 谷川佳幸

平成 27 年度 学部・附属学校の連携の届け 一覧

	代表者	実施項目	連携先	目的・内容など	期日	参加者
1	佐藤 裕紀子 家政教育	研究 授業実践 実態調査	小・中	家庭科における基礎・基本の定着をはかるための具体的な手立てとして学習カルテを考案し、その効果を検証すること。	H26.4.1～ H28.3.31	家政教育 佐藤 裕紀子 公立学校教員 1 名 附属小教員 1 名 附属中教員 1 名
2	廣木 聡 附属特別支援学校	その他	特	地域のセンター的役割、授業スキルの向上 講話:「国語のアセスメントと授業づくりについて」 「算数・数学のアセスメントと授業づくりについて」	H27.4.6～ H27.4.9	障害児教育 新井 英靖 附属特別支援学校教員 各 30 名 県内の幼稚園、小学校、中学 特別支援学校教員 各約 5 名
3	片山 美千恵 附属中学校	その他	中	定期健康診断における補助	H27.4.11 H27.4.12	養護教諭養成課程 4 年次 2 名
4	岸 良範 臨床心理	教育相談	中	大学院生の実施研修	H27.4～ H28.3	大学院生 10 名 (前期 5、後期 5)
5	佐々木 忠之 情報文化教室	その他	小	教師に親しみやすくするツール? 似顔絵スタンプおよびシールの製作	H27.4～	附属小学校教員 7 名
6	大西 有 技術教育	研究 事業実践	中	附属中学校技術科の共同研究者として、技術教育の充実向上に寄与するため。	H27.4～ H28.3	技術教育 大西 有
7	小松 大介 附属特別支援学校	研究 授業実践	特	授業スキルの向上、本校の研究活動の公開、地域のセンター的役割 内容:テーマ「感じる 考える 伝え合う 授業づくり(課題学習)」授業実践、指導助言、授業についての研修会実施、公開研究会開催(12/12)	H27.4～ H27.12	障害児教育 東條 吉邦 勝二 博亮 新井 英靖 附属特別支援学校教員 30 名 県内の幼稚園、小学校、中学校、 特別支援学校教員他 約 200 名
8	田中 正彦 附属中学校	実態調査	中	卒論のための調査 学生の卒論に必要なデータの収集	H27.4～ H28.3	社会科教育 学生 4 年生
9	田中 正彦 附属中学校	授業実践	中	学生の授業力向上 授業参観し、その後授業についての協議	H27.4～ H28.3	社会科教育 学生 1 年生
10	齋藤 英敏 英語教育	研究	中	英語ディスカッション指導の検討 授業の様子を観察し、指導法について検討	H27.4～ H28.3	英語科教育 2 名 附中教員 3
11	山本 勝博 理科教育	授業実践	中	総合的学習の時間の実演 水戸黒木染め	H27.4～12 4 回	補助 院生 4 名
12	鈴木 一史 国語教育	研究	中	授業づくり研究会 共同研究	H27.4～ 毎月 1 回	国語科教育 附 中教員 3 名他
13	小泉晋弥 附属幼稚園	授業実践	幼	柔道体験を通して、日本の文化に触れ、身体を意識しながら動かしたり、礼儀を学んだりする機会とする	H27.5.18 ～H27.6.15	保健体育 尾形敬史(講師) 附幼 5 歳児
14	高野 恵美子 附属幼稚園	事例研究	幼	保育参観、保育カンファレンス等を通して幼児理解を深める	H27.5.26 ～H27.7.8	障害児教育 新井英靖 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 附幼全教諭
15	根本 博 数学教育	その他	小	教育技術向上を図るための現職教員による指導 算数科教育法特講	H27.5.19・26	附属小学校 飯村高志 数学教育選修 2 年
16	田中 健次 音楽教育	その他	小	教育技術向上を図るための現職教員による指導 音楽科教育法特講	H27.5.19・27	附属小学校 清水匠 音楽教育選修 3 年
17	渡邊 将司 保健体育	事業実践 実態調査	幼	幼児の日常の身体活動量を調査するとともに、鬼遊びの運動強度と継続的介入効果を検証する。	H27.5～ H28.2	教育保健 青柳 直子 幼稚園教員 3 名
18	遠藤 貴則 附属特別支援学校	その他	特	地域のセンター的役割 内容: 近隣小学校で 授業参観及び指導助言	H27.5～ H28.1	附属特別支援学校 遠藤 貴則 滑川 昭 学校臨床心理 金丸 隆太 茨城町立長岡第二小学校教員 15 名

19	高野 恵美子 附属幼稚園	研修会	幼	エピソード記述方法についての研修	H27.6.12	障害児教育 新井英靖(講師) 附幼全教諭
20	大西 有 技術教育	研究 事業実践	幼	ゼミ所属学生の問題解決能力を育成するため	H27.6.16 H27.10.20	技術教育 大西 有 4年2名、3年4名
21	小泉晋弥 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「現代を生きる子どもの発達課題 どの ような子育てが求められるのか」	H27.6.29	学校教育 丸山広人 附幼全保護者
22	金子 一夫 美術教育	研究	中	茨城大学教育学部附属中学校授業づくり研究会 美術 茨城大学・附属中・公私立学校教員による美術 教育研究推進	H27.7.5	美術教育 金子 一夫 小泉 晋弥 附属中 1名 他大学教員 1 名 公私立学校教員 3名 院生 2名
23	杉本 恵子 学校教育	研究 授業実践	小	児童の学び合いがどのように成立するか、またそれ をより充実させるためにはどのような授業展 開、指導方法等が求められるか等について、附 属小学校の複式学級での授業研究を通して検討 する。	H27.6~ H28.3.31	学校教育 生越 達 三輪 壽二 杉本 恵子 附属小教員 3名
24	青柳 直子 教育保健	実態調査	幼	本研究では、園児と保護者を対象として、睡眠や 食事等の生活習慣、心身の健康度、身体活動に ついて調査を行い、その実態に基づき、生活習 慣の改善のための介入の手がかりを得ることを 目的とする。	H27.6~ H28.3.31	保健体育 渡邊 将司 附属幼稚園教諭 1名
25	田中 健次 音楽教育	その他	小	教育技術向上を図るための現職教員による指導 音楽科教育法特講	H27.7.14	附属小学校 松本稔子 音楽教育選修3年
26	廣木 聡 附属特別支援学校	その他	特	地域のセンター的役割、授業スキルの向上 内容:オープンスクールでの講話 「知的障害児の国語と算数の授業づくり」	H27.7.22	障害児教育 新井 英靖 附属特別支援学校教員 30名 県内外の幼稚園、小学校、中学校、 高等学校、特別支援学校教員、 施設職員、保護者等 約240人
27	細川 美由紀 障害児教育	研究	幼	幼児期における他者感情理解の発達について検 討する	H27.7.24~ H28.3.31	障害児教育 細川 美由紀 特別支援教育4年 1名
28	向野 康江 美術教育	授業実践	小 中	教育実習のための予備訓練のため	H27.8.1~ H28.1.31	附属小・中学校教員 各1 名 美術選修の2年生
29	向野 康江 美術教育	その他	小 中	事業実践場面分析演習における教育向上を図る ため、附属小・中教員による指導。	H27.8.1~ H28.2.4	美術教育選修2年生15名 附属小 教員 1名 附属中教員 1名
30	菊池 美穂 附属特別支援学校	その他	特	地域の幼児と保護者に向けてセンター的役割、 指導スキルの向上 幼児向け公開講座「ムーブメント」の実施	H27.8.5	障害児教育 新井 英靖 附属特別支援学校教員 10名 近隣幼稚園、保育園の園児及び 保護者 10ペア
31	滑川 昭 附属特別支援学校	その他	特	地域の幼児と保護者に向けてセンター的役割、 指導スキルの向上 内容:小中学校教員向けグループワーク研修会	H27.8.6	学校臨床心理 正保 春彦 附属特別支援学校教員 10名 近隣幼稚園、小学校、中学校の教員 約20名
32	勝二 博亮 障害児教育	研究	特	知的障害者の走動作に関する特徴を明らかにす る。	H27.9.4~ H28.1.31	障害児教育 勝二 博亮 障害児専修 1名
33	小泉晋弥 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「子どもの健康と生活リズムとのかかわり」	H27.9.25	教育保健 青柳直子 附幼全保護者
34	勝二 博亮 障害児教育	研究	幼 特	紙芝居を見ている際の情報入手過程を視覚検索 の面から検討することを目的とする。幼児につい てはその発達的变化を、知的障害児について は、健常発達との比較を行う。	H27.9.30~ H28.3.31	障害児教育 勝二 博亮 障害児専修2年 1名
35	廣木 聡 附属特別支援学校	その他	特	地域のセンター的役割 内容:近隣小中学校で配慮が必要な児童生徒へ の ICT 活用実践	H27.9~ H28.1	附属特別支援学校 廣木 聡 学校臨床心理 金丸 隆太 茨城県水戸教育事務所 水戸市立石川小学校教員 水戸市立第一中学校教員

36	齊藤 昌晴 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育コース 卒業研究協力 内容:驚きを手がかりとした障害児の誤信念理解の促進について	H27.9~ H27.11	障害児教育 東條 吉邦 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名
37	近藤 祥子 附属幼稚園	研修会	幼	気になる幼児についての事例検討	H27.10.6	障害児教育 新井英靖(講師) 附幼全教諭
38	杉本 憲子 学校教育	その他	小	教育技術向上を図るための現職教員による指導 生活科教育法研究	H27.10.20・27 H27.11.24・12.1	附属小学校 仲田美貴子 教育学部授業「生活科教育法研究」受講者
39	杉本 憲子 学校教育	その他	小	教育技術向上を図るための現職教員による指導 生活科教育法研究	H27.11.10・17 H27.12.8・15	附属小学校 飯村高志 教育学部授業「生活科教育法研究」受講者
40	金子 一夫 美術教育	研究	中	茨城大学教育学部附属中学校授業づくり研究会 美術 茨城大学・附属中・公私立学校教員による美術 教育研究推進	H27.11.22	美術教育 金子 一夫 小泉 晋弥 附属中 1 名 他大学教員 1 名 公私立学校教員 3 名 院生 2 名
41	小泉晋弥 附属幼稚園	研究会	幼	講話 「自然と遊ぼう！」	H27.11.26	理科教育 郡司晴元(講師) 研究会参加者 約190名 附幼全教諭
42	増田 浩一 附属中学校	実態調査	中	卒論のための調査 学生の卒論に 必要なデータの収集	H27.11~ H27.12	英語科教育 学生4年生
43	遠藤 貴則 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育 大学院修了研究協力 内容:知的障害児の走運動に関する研究	H27.11~ H27.12	障害児教育 勝二 博亮 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名
44	三輪 壽二 学校教育	教育相談	中	不登校生徒のカウンセリング	H27.11	附属教育 附中 教員 3 名他
45	小泉晋弥 附属幼稚園	研究会	幼	「子どもと共に遊びをつくる(3年次) - 自然との触れ合いを通して -」 分科会の司会・グループ協議のまとめ	H27.11.26	障害児教育 新井英靖 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 理科教育 大辻永 研究会参加者 約190名 附幼全教諭
46	鈴木 一史 国語教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 3 名
47	村山朝子, 木村勝彦 社会科教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 3 名
48	根本 博 数学教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 3 名
49	山本 勝博 理科教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 3 名
50	藤田 文子 音楽教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 1 名
51	金子 一夫 美術教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 1 名
52	日下 裕弘 保健体育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 2 名
53	大西 有 技術教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 1 名
54	野中 美津枝 家庭教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 1 名
55	猪井 新一 英語教育	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 3 名
56	生越 達 学校教育(道徳)	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 1 名

57	杉本 憲子 学校教育(特別活動)	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 2 名
58	青柳 路子 学校 教育(総合)	研究	中	平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者	H27.11.29	附中教員 1 名
59	小沼 信行 附属中学校	その他	中	附属中学校の公開授業研究会にボランティア として学生に参加させることで、研究会の運営 に携わらせるだけでなく、公開授業・分科会を 参観させ、将来教員となる資質を高める。	H27.11.29	教育学部学生
60	水野 涼子 附属中学校	研究	中	美術教員を目指す 1 年生の意識向上と授業研 究 究	H27.12.1	美術選修 1 年 生 14 名
61	大辻 永 理科教育	その他	小 中	一般社団法人日本理科教育学会第 54 回関東 大会における運営及び模擬授業への協力	H27.12.5	小学部教員 5 名、中学部教員 4 名 小学部 3 年生 24 名
62	遠藤 貴則 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育 大学院修了研究協力 内容:視覚探究からみた読み聞かせ場面におけ る物語理解に関する研究	H27.12	障害児教育 勝二 博亮 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名
63	遠藤 貴則 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育 特別専攻科修了研究協力 内容:知的障害児の蹴運動に関する研究	H27.12	障害児教育 勝二 博亮 学生 2 名 附属特別支援学校教員 4 名
64	櫻井 幸子 附属特別支援学校	研究	特	特別支援教育 特別専攻科修了研究協力 内容:知的障害児の立位姿勢に関する研究	H27.12	障害児教育 勝二 博亮 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名
65	野村 仁 附 属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校国語科教諭 国語教 育 昌子佳広 鈴木一史
66	小島 貴志 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校社会科教諭 社会科教 育 村山朝子 木村勝彦
67	飯村 高志 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校算数科教諭 数学教育 根本博
68	栗原 裕弥 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校理科教諭 理科教育 大辻永
69	松本 稔子 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校音楽科教諭 音楽教育 田中健次
70	高野 敦史 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校図画工作科教諭 美術教育 向野康江
71	中山 香理 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校家庭科教諭 家政教育 石島恵美子
72	湯瀬 英寿 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校体育科教諭 保健体育教 育 渡邊将司 篠田明音
73	横堀 冴子 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校Eタイム部員教諭 英語教育 猪井新一
74	海老名育子 附属小学校	研究	小	児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師)	H27.12.1~ H28.1.29 まで	附属小学校こころの時間研究部員 学校教育 生越達
75	昌子 佳広 実践センター	その他	小	学校保健・危機管理の今日的課題と望ましい対応の研究 養護実地研究入門	H27.12.18	附属小学校 高橋裕子 養護教諭養成課程2年生
76	橋浦 洋志 国語教育	授業実践	小	「ことばの力」実践演習 ことばの力につい て実践を通して考察する	H28.1.20	学校教員養成課程2年生・養護教諭養成課程2年生 附属小学校 全児童及び全学級担任
77	小泉晋弥 附属幼稚園	講座	幼	子育て講座 「子どもの言葉をはぐむために」	H28.2.1	障害児教育 細川美由紀 附幼全保護者

4 講演会・研修会

4-1 ICT活用講演会

期日 平成 27 年 12 月 12 日(土)

会場 模擬授業室

講師 小林祐紀先生 (情報文化教室・准教授)

12 月 12 日(土)の午後、ICT活用講習会を開催しました。今回は講師として、本年度より情報文化教室に着任された小林祐紀先生にご協力いただきました。小林先生は前年度まで金沢市で小学校教員として活躍されており、特に ICT を活用した授業実践を豊富に積み重ねられ、数々の著書、論文、実践報告にまとめてこられました。それらは全国的にも高く評価され高名な実践家のお一人でしたが、幸いにも本年 4 月より本学准教授にお迎えすることができました。全国的に見て、茨城県、また本学のある水戸市周辺では、まだまだ実践・研究の端緒についたばかりで、先進地に比較すれば大きく遅れをとっているように見受けられます。小林先生は当地の ICT 教育の発展・深化に大きな力を与えてくださるものと思います。

講習会では、主にタブレット端末を用いた授業実践のあり方について、講話と模擬授業(ワークショップ)を通してご教示いただきました。

講話では、近年の教育実践界における ICT 活用状況にかかわるさまざまな情報をご提示いただくとともに、先生自身の小学校における実践などを VTR(動画資料)を通じてご紹介いただきました。それらを通して、ICTは教育界において今はまだ「特別なもの」であることは否めませんが、黒板、教科書、ノートといったものと同様に、授業の場にあたりまえにあるものとなっていくべきであって、何も ICT を活用することそのものが目的なのではなく、ICT「ありき」で授業を考えていくというものでもないこと、また ICT は学習者同士の協働学習、今日重視される「アクティブラーニング」の成立にも大きく寄与することが期待されるものであること、などのお考えを提示されました。

そうした ICT の活用に際しては、まずは先生自身が ICT のよさを体験し、可能性を肌で感じる大切であるということから、模擬授業(ワークショップ)形式で参加者が直接タブレット端末(iPad)に触れる機会を設定していただきました。iPad で使用できるアプリ「ロイロノート」を用いて商品の CM を作るという活動で、先生ご自身による小学校での実践を下敷きに行っているとのことでした。参加者は任意の 4 人グループを作り、先生が用意されたお菓子、栄養ドリンクなどの商品から好きなものを選んで、その CM を制作します。実際の CM 制作は、相当な予算と時間と機材などをつかって作るものですが、iPad



一つで静止画、動画、文字(キャッチコピーなど)を簡単に撮影・入力・編集することができます。参加者ははじめ機材の操作に苦戦していましたが、徐々にわかってくると、楽しそうに夢中になって制作に没頭していました。できあがったものは電子黒板に表示して披露し合いましたが、そうした発表などが即座にできるのも現在の ICT 機器ならではの。



4-2 優秀教員による授業研究会

期日 平成 28 年 2 月 3 日(水)

会場 教育学部 D201 教室

講師 飯島敏子先生、ALT 加藤リザ先生

2月3日(水)「優秀教員による模擬授業研修会」を開催しました。今回は講師(授業者)として、鉾田市立上島西小学校の飯島敏子先生をお招きしました。先生は、小学校外国語活動の実践に対するお取り組みから、茨城県教育委員会より平成26年度優秀教員「ティーチャー オブ ティーチーズ」表彰を受けておられます。この研修会では、小学校6年生を対象として構想・実践された外国語活動の授業を、鉾田市のALT加藤リザ先生とともに、模擬授業として公開していただきました。児童役として授業を受けた28名を含め、主に教育学部3年次学生100名以上が参加しました。



授業は、「What do you want to be?」、つまり「あなたは(将来)何になりたいの?」という問いから、子どもたちが抱く将来の職業に関する希望を英語で語り合うという活動を中心に据えて展開されました。飯島先生は時に日本語を交えながら、リザ先生は英語のみで、学習者とコミュニケーションをとって楽しく授業への導入を図られた後、ゲーム的要素を含むグループ活動の中で学習者同士が言葉のやりとりを楽しめるように授業が進行していきました。飯島先生とリザ先生とはもちろん事前に打合せをされていますが、後の説明によるとリザ先生は複数の学校のALTをかけもちで担当されており、実際の授業ではこと細かな打合せのうえで授業に臨むことはなかなか難しいということです。が、お互いの息の合った声の掛け合いで、しっかりと学習者の活動が支援されていきました。

小学校の外国語活動は、平成20年の学校教育法改正、学習指導要領の改訂で始まり、その実践はまだ緒に就いたばかりと言えますが、はやくも次期の改訂では正式な「教科化」も噂されていますし、地域や学校の裁量によって5・6年生だけではなく低学年から実践されている場合もあると聞きます。小学校の先生になろうという希望をもつ学生たちにとっては、まだ十分な考えや実践の見通しが持てないでいる、未知の領域と言えます。そんな学生たちにも、実践の道筋が明るく、楽しく見えてくるような、そんな模擬授業でした。後の説明・協議の中でも、学生たちからの質問・疑問に丁寧にお答えくださり、大いに勉強になったものと思います。



飯島先生が用意してくださった説明資料のタイトルは「Let's Enjoy 外国語活動」でした。「外国語活動を楽しみましょう」という言葉は、飯島先生からのあたたかい励ましとなって、学生たちの心に響いたようです。

4-3 教育学部委託生(前期)による自主研修会 ―体育・社会―

期日 平成 27 年 6 月 24 日(水)

会場 模擬授業室

6 月 24 日(水)、教育学部委託生(前期)による自主研修会が模擬授業室にて開催されました。今回は小学校における体育の保健分野、中学校社会科(歴史分野)の授業のあり方について、それぞれ 30 分程度の授業(委託生および学生数名が児童・生徒役として参加する形での模擬授業)を通じた提案に基づき、検討が行われました。

体育では、電子黒板を使用した、パワーポイントでのプレゼンテーション形式による授業(小学校 4 年生、6 年生)の提案がされました。「思春期のからだの変化」や「感染症の予防」等について、クイズ形式で児童たちに興味を持たせながら授業を進めることに加え、事前の準備として養護教諭と打ち合わせを行いティームティーチングで授業を行うこと、事後には児童の感想などを学級・学年だより等で紹介し家庭でも話題にできるように工夫することなど、授業内容と連動させた学級経営の方法についても提示されました。

社会(中学校 1 年生想定)では「文明のおこりと成り立ち」について、神栖市で行われている授業形態である、「パーソナル(個人での意見まとめ)→グループ(集団での話し合い)→クラス(話し合いの結果の発表・共有)→まとめ・振り返り」という授業の流れを実際に体験しました。授業の最初に行われたじゃんけん大会で勝った生徒を計時係に任命したり、話し合い活動の役割(司会・計時・記録・発表等)を明確に決めたりと、常に生徒に役割をもたせて主体的に学習活動を行うことが印象的な授業でした。

実践発表後の研究協議についてもワークショップ形式で行われ、あらかじめ用意された概念シートに、模擬授業に参加し気づいたことを書いた付箋紙を貼り付けて、グループ化して検討する方法により実施されました。授業改善への検討方法としてだけでなく、生徒の学習方法としても活用できる内容でした。研究協議後は、現職の教員に対し院生や学部生から積極的に質問があり、委託生にとっても学生にとっても有意義な時間となりました。



4-4 教育学部委託生(後期)による自主研修会 ―音楽・技術・教育相談―

期日 平成 27 年 12 月 9 日(水)

会場 模擬授業室

教育学部委託生(後期)による自主研修会が開催されました。今回は、音楽、技術の模擬授業と教育相談のあり方について、それぞれ 20 分程度の模擬授業を行った提案に基づき、検討が行われました。

音楽の模擬授業では、全員で「翼をください」を合唱した後、歌詞を覚えて歌うためのコツや、高い音を出して歌うためのワンポイント等を、ゲーム感覚で見つけさせる提案がなされました。自分の思いや意図を伝えながら教材を扱うことの大切さを実感できました。



技術では、ICT 機器(電子黒板、デジタル教科書)を用いた「エネルギーの変換・利用と保守点検」の学習が行われました。ブレーカーの漏電遮断機が作動する仕組みを ICT を活用しながら学び、同時に身の回りの電気機器のワット数や節電に関心が寄せられる授業展開となりました。インターネット上の動画を紹介しながら、安全に対する意識を啓発することの有効性を楽しく学ぶことができました。

教育相談では、先生のためのアサーション(相手のことも自分のことも大切にするコミュニケーション)が提案されました。相手に誘われたときの断り方を、それぞれ「のび太くん(非主張的な自己表現)」、「ジャイアン(自己中心的な自己表現)」、「しずかちゃん(アサーティブな自己表現)」の三つに分類し、ロールプレイングを交えながら考えていきました。わかりやすく、すぐにでも実践したくなる方法でした。

また、ディスカッションのあり方として「メトロノームディスカッション(論議とその内容を紙に書く作業を、正確に何度も繰り返す)」と、「ワールドカフェ式ディスカッション(特定のテーマについて自由なカフェのように会話をしながらアイデアを深め、新たな発見と共有を行う)」の二つの方法が提示され、実際にグループで課題を決めて話し合いました。問題解決のためのステップが詳細にあり、共通の土台のある話し合い活動や、各教科、道徳、特別活動など、活用の場が幅広く想定される内容でした。

委託生相互の研修としてのみならず、大学教員、学部・大学院の学生も参加し、意見を交換し合うことができ、とても有意義な時間となりました。



4-5 茨城大学教育学部 第 5 回 附属学校フォーラム

期日 平成 28 年 2 月 27 日(土)

会場 人文学部講義棟 10 番教室

茨城大学教育学部主催による第 5 回附属学校フォーラムを開催しました。このフォーラムは、茨城大学教育学部教員と茨城県の教育行政関係者、並びに附属学校教員や公立学校教員とが連携しながら一体的に教育研究と教育実践を推進し、その成果を提案するとともに、参加者と議論し合う場となることを意図して実施しているものです。

今回のテーマは「心をはぐくむ教育」としました。グローバル化、急速な情報化や技術革新が進む現代、人としてよりよい人生を送るためには、心をはぐくむ教育がますます重要になってくると考えられます。また、道徳が特別の教科になるなど、学校教育の転換期を迎えています。そこで、附属学校園における実践を基に参加者がディスカッションすることを通して、これからの心の教育の在り方について研修し、考えを深めることをねらいとして実施しました。



参加者は、大学教員・学生・教育行政関係者・附属学校教員・公立学校教員など、合わせて 129 名でした。

開催に先立ち、三村信男茨城大学長が挨拶し、これからは学生にも人間力を育てていくことが大切であり、そのためには、自己肯定感や自己有用感などの心の教育を重視していくことが必要であると語りました。



三村信男学長あいさつ



小野寺俊教育長あいさつ

また、小野寺俊茨城県教育委員会教育長の来賓挨拶では、教育現場が今まさに転換期を迎えていること、教員養成の質を高めるために大学と教育委員会が連携を深めていくことが大切であることを述べられました。さらに、道徳教育の重要性と、茨城県が取り組んでいる高等学校での道徳の授業の拡大について述べられました。

続いて、生越達教育学部長より「心の教育と教科『道徳』」と題する話題提供がありました。その中で、競争主義が中心となる市場社会において心の教育が目指すべきことは、「つながり」を取り戻すことではないかという提言がありました。また、道徳の教科化に向けて期待していることや心配されることについても述べられました。



生越達教育学部長による話題提供

話題提供後は、小泉晋弥教育学部副学部長がコーディネーターとなり、生越達教育学部長及び附属学校園の先生方によるパネルディスカッションが行われました。各パネリストからは、それぞれが日々実践している心をはぐくむための取組について紹介され、子どもの心をはぐくむためには何を大切にしていかなければならないのか議論されました。また、道徳が教科になるにあたって大事にしていかなければならないことや心配などについて、会場も含めて話し合いました。今の段階で一つの答えはありませんが、参加者の一人一人が、これからの心の教育の在り方や教科としての道徳の在り方について深く考える貴重な機会となりました。



パネルディスカッションの様子

5 教育学部としての取組

5-1 茨城県教育委員会との連携活動

茨城県教育委員会との連携活動として教育学部教員は、毎年「茨城県教育研修センター」（笠間市）での各種研修事業に参画し、協力関係を続けています。これは平成 18 年 3 月に研修センター所長と教育学部長との間でかわされた「連携協力による覚書」に基づくものであり、教育研修センターで毎年おこなわれる「10 年経験者研修」をはじめとする様々な研修講座には、教育学部教員が講師として派遣されております。その際に附属教育実践総合センターは、大学側の連絡・調整の役割を担っております。平成 27 年の講師名と講座名は以下の通りです。

社会・地理歴史・公民研修講座	平成 27 年 11 月 19 日	10:30 ～ 12:00	千葉 真由美
家庭科授業づくり研修講座	平成 27 年 8 月 19 日	10:00 ～ 11:30	佐藤 裕紀子
学校組織マネジメント研修講座	平成 27 年 7 月 9 日	9:40 ～ 15:55	加藤 崇英
教職に関する研究	平成 27 年 5 月 18 日	10:00 ～ 14:30	加藤 崇英
教職に関する研究	平成 28 年 2 月 24 日	9:30 ～ 15:30	加藤 崇英
新規採用養護教諭研修講座	平成 27 年 7 月 31 日	10:00 ～ 11:30	青柳 直子
教育相談（初級）研修講座	平成 27 年 6 月 23 日	9:30 ～ 11:30	正保 春彦
10 年経験者研修講座（小・中・高，選択，教育相談）	平成 27 年 7 月 28 日	9:30 ～ 11:30	正保 春彦
10 年経験者研修講座（養護教諭）	平成 27 年 6 月 12 日	14:30 ～ 16:00	瀧澤 利行
10 年経験者研修講座（養護教諭）	平成 27 年 7 月 8 日	11:00 ～ 12:30	廣原 紀恵
10 年経験者研修講座（養護教諭） 新栄教 10 栄	平成 27 年 10 月 28 日	9:30 ～ 12:00	青柳 直子
10 年経験者研修講座（特）	平成 27 年 6 月 24 日	10:00 ～ 12:00	勝二 博亮
10 年経験者研修講座（特）	平成 27 年 11 月 18 日	10:00 ～ 12:00	細川 美由紀
教育相談に関する臨床研修	平成 27 年 7 月 29 日	10:00 ～ 12:00	野口 康彦
教育相談に関する臨床研修	平成 28 年 1 月 22 日	10:00 ～ 12:00	三輪 壽二

5-2 茨城県教育研究連盟との連携活動

茨城県は茨城大学、茨城県教育会、茨城県教育研究会、茨城県教職員組合など教育関係諸団体によって「茨城県教育研究連盟」を組織しています。連盟の任務は、研究集会の開催、教育情報の収集と集積です。当センターではこれらの関連資料を誰もが閲覧できるようにしています。また例年おこなわれる研究集会の分科会に助言者として、教育学部の教員が参加しています。

本連盟の今年の研究集会（第 60 回）は平成 27 年 10 月 17 日に茨城大学水戸キャンパスにおいて開催されました。

今年の研究集会には 585 名の参加者がありました。まず全体会では、茨城大学教育学部勝二博亮教授による講演「自尊感情の低下がみられる発達障害児への支援」が行われ、その後 21 の分科会に分かれて研究発表がなされました。分科会では 236 人が実践レポートを報告し、それにもとづいて熱心な討議が行われました。それぞれの分科会に助言者として参加した教育学部教員は以下の通りです。

国語教育	昌子佳広
外国語教育	齋藤英敏
数学教育	根本博
社会科教育	木村勝彦
理科教育	山本勝博 大辻永
生活科・総合・環境教育	杉本憲子 伊藤孝
技術教育	大西有
家庭科教育	野中美津枝
音楽教育	藤田文子
美術教育	金子一夫 島田裕之
保健教育	石原研治
体育・保健体育教育	中嶋哲也
特別活動	井上寛士(附属中学校)
道徳教育	青柳路子
生活指導・幼保小連携	丸山広人
進路指導	望月厚志
情報化と教育	小林祐紀 久保鉄平(附属中学校)
特別支援教育	勝二博亮
教育条件整備と教育の問題	打越正貴
個性の尊重とその評価	村野井均
人権保障と共生の教育	三輪壽二

前年に引き続き、本年度も茨城県教育研究連盟の事務局長を当センター長が兼務しています。

5-3 平成 27 年度開講の茨城大学教育学部公開講座

講座名	講師	開催日	募集・受講 人数
プロジェクト WET エデュケーター講習会	郡司 晴元	5/23(土)	募集人員 5 人 受講人数 10 人
新しいインターネットの利用法(前期)	本田敏明	8/5(水)、8/6(木) 8/7(金)	募集人数 15 人 受講人数 11 人
新しいインターネットの利用法(後期)	本田敏明	11/1(日)、11/2(月) 11/3(火)	募集人数 15 人 受講人数 9 人
インプロ入門	正保春彦 他学 外講師 1 名	6/20(土)、6/27(土)	募集人数 25 人 受講人数 13 人
グループワークで学ぶ カウンセリング講座	正保春彦	8/1(土)、8/2(日)	募集人数 25 人 受講人数 8 人
心を育てるグループワーク	正保春彦	8/8(土)、8/9(日)	募集人数 25 人 受講人数 12 人
教育と臨床に生かすイン プロヴィゼーション	正保春彦 他学 外講師 1 名	9/26(土)、9/27(日)	募集人数 25 人 受講人数 15 人

5-4 県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

連携先

茨城県教育庁高校教育課・茨城県立鹿島灘高校・茨城県立結城第二高校

活動メンバー

大学院生 10 名

学校臨床心理専修 8 名 国語教育専修 2 名

学部生 13 名

養護教諭養成課程 5 名・社会選修 1 名・国語選修 1 名・音楽選修 2 名、保健体育選修 1 名・特別支援教育コース 1 名・人間環境教育課程心理コース 2 名

指導教員 3 名

守屋英子・金丸隆太（学校臨床心理専攻）・三輪壽二（学校教育）

活動の内容・目的

平成 17 年度に開校したフレックススクール茨城県立鹿島灘高等学校（単位制・三部制）および平成 20 年度に同じくフレックススクールとして開校した茨城県立結城第二高等学校へ、生徒達の心のケアの一端を担うこと（気軽な話し相手となり、生徒達のストレスを軽減する）を目的とするキャンパスエイドとして学部生・大学院生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の 4 点である。

- (1) 生徒に対する話し相手としての役割で行う支援活動。
- (2) 「心理学」（必修授業）授業時に補助として参加するなど学校カウンセリングに関わる活動。
- (3) 学校カウンセリングに関わる校内研修会等への参加。
- (4) 活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を、毎回校長に提出する。

今年度の活動

鹿島灘高校では前期 10 名、後期 4 名が、結城第二高校では前期 7 名、後期 3 名がキャンパスエイドとして活動した。今年度は学部生のキャンパスエイドが活動できる曜日が前期の同じ曜日に集中し、2 人～4 人で交代しながら同じ曜日に活動をする一方で、エイドが活動できない曜日ができ、鹿島灘高校で後期 1 日、結城第二高校で前期 1 日、後期 2 日エイドがいない曜日ができた。

毎月最終週にミーティングを持ち、1 ヶ月のキャンパスエイド活動を振り返った。各自の活動を報告し、活動上疑問や困難を感じることにについて全体で話し合った後、高校ごとに分かれてエイドの居る部屋に来室する生徒についての情報を共有し、生徒理解と対応を考える時間を持った。また、キャンパスエイドがふだん活動する高校以外のフレックス高校を訪問し、エイド活動をする機会を持つことができた（鹿島灘高校→結城第二高校 8 名、鹿島灘高校→茎崎高校 5 名、結城第二高校→鹿島灘高校 5 名、結城第二高校→茎崎高校 2 名）。

活動の成果・意義

フレックススクールに入学してくる生徒は、中学時代にいじめや不登校を経験したり、何らかの発達障害（またはその傾向）を持っていることも多く、そのために対人関係上の困難を抱えていることが多い。同年代の生徒とはうまく関われないが、先生ではない、少し年上で年齢に近いキャンパスエイドと話がしたくて来室する生徒、教室に居場所がなくてお昼休みや空き時間にキャンパスエイドが居る空間に居場所を求めて来室する生徒など、高校内にキャンパスエイドがいることで、生徒達に居場所とコミュニケーションの機会を与えることができたと考える。

キャンパスエイド達は高校での活動と毎月のミーティングを通して、エイド室を訪れる生徒達に対する理解や、対応の仕方などを学び、対人援助についての理解を深めることができたと考える。また他校を訪問したことにより、学校の特色によってそれぞれ違いがあり、その違いに合わせた様々な工夫があることも学ぶことができた。

5-5 第 7 回茨城地域教育臨床研究会(予定)

大学生・大学院生による中学・高校でのメンタル・サポート
 — 多様な生徒への支援を考える —

【日時】平成 28 年 3 月 26 日 (土) 13 時～17 時

【場所】茨城大学教育学部 B 棟 B205 教室

【プログラム】

1. 開会行事

挨拶

茨城県高校教育課 高校教育改革推進室長 植木邦夫先生

茨城大学教育学部地域連携委員会 委員長 小川哲哉先生

茨城地域教育臨床研究会 代表 守屋英子

2. フレックス高校・附属中学校における多様な生徒への支援—成果と課題—

(1)茨城県立鹿島灘高校より

(2)茨城県立結城第二高校より

(3)茨城県立荃崎高校より

(4)茨城大学教育学部附属中学校より

3. 1 年間のキャンパスエイド活動から多様な生徒への支援を考える

(キャンパスエイドによる発表)

(1)茨城県立鹿島灘高校におけるキャンパスエイド活動

(2)茨城県立結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

(3)茨城県立荃崎高校におけるキャンパスエイド活動

(4)茨城大学教育学部附属中学校におけるキャンパスエイド活動

3. グループディスカッション

4. シェアリング



← 結城第二高校キャンパスエイド室

↓ 鹿島灘高校フリースペース



5-7 教育学研究科 臨床心理相談室活動報告

1. 平成 26 年度・平成 27 年度（2 月末現在）の相談活動

平成 26 年度および平成 27 年度の相談状況は以下の表 1～表 3 のとおりであった。但し平成 27 年度の数値はすべて平成 28 年 2 月末日のものである。

表 1 平成 26・27 年度相談件数

年度	新規件数	継続件数	総件数	延べ来談件数	延べ面接回数
H26	73	123	196	1536	2344
H27	75	121	196	1260	1770

表 2 平成 26・27 年度新規相談内訳

年度	心理面接	親子面接	コンサルテーション	合計
H26	13	56	4	73
H27	16	52	7	75

表 3 平成 26・27 年度新規相談年齢別構成

年度	幼児	小学生	中学生	高校生	専門・大学生	成人	コンサルテーション	合計
H26	7	25	13	8	3	13	4	73
H27	8	13	16	10	3	18	7	75

2. 過去 5 年間の相談実績の推移

過去 5 年間の相談実績は表 4 のとおりである。また、過去 5 年間の新規相談内容の推移は下図および表 5 のとおりである。但し平成 27 年度は平成 28 年 2 月末日までの数値である。

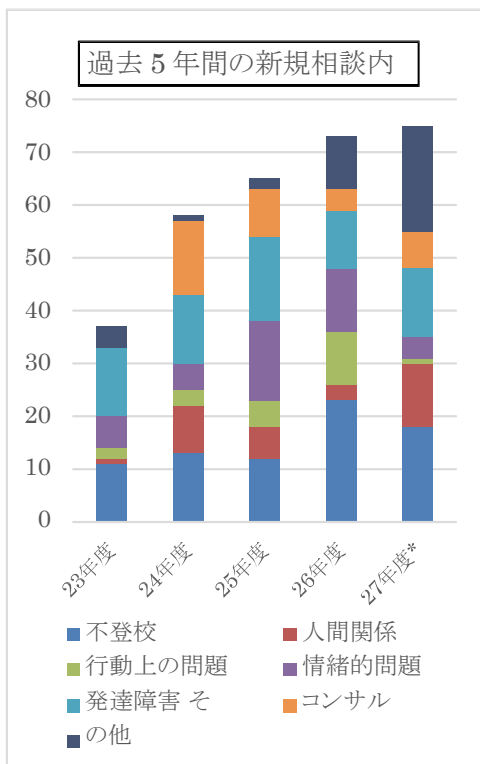


表 4 過去 5 年間の相談実績

年度	H23	H24	H25	H26	H27
新規相談件数	38	58	65	73	75
延べ面接回数	1,946	1,714	2,112	2344	1770

表 5 過去 5 年間の新規相談内容

年度	23	24	25	26	27
不登校	11	13	12	23	18
人間関係	1	9	6	3	12
行動上の問題	2	3	5	10	1
情緒的問題	6	5	15	12	4
発達障害	13	13	16	11	13
コンサルテーション		14	9	4	7
その他	4	1	2	10	20
合計	39	58	65	73	75

6 資料

6-1 茨城大学教育実践研究第 34 号原稿執筆者

地方教育行政の現状と課題 ――高校教員養成についての一考察――	柴原宏一
アカペラの音楽教育的側面に関する一考察 ――パレストリーナを中心に――	内野健太・藤田文子
美術科と特別支援学校による連携の試み――絵画を軸とした芸術体験 「レインボーミラクル for チャレンジド」の実践を通して――	片口直樹・蛭田清子
日米技術教育の比較による授業モデル考案に向けた ISM 構造チャートの作成 ――学習指導要領と技術リテラシーのためのスタンダード（全米標準）をもとに――	雲宮有一朗・臼坂高司
大学生の洗濯行動の実態と課題	木村美智子
小学校家庭科「ミシン縫い」におけるデジタル教材の効果	野中美津枝・田中菜帆・中山香里
児童が好む英語の授業とそうでない授業の質的分析	猪井新一
人との関わりの中で主体的に働く力を育てる作業学習 ――吹き出しの指導案およびエピソード記述を用いた実践研究――	錦織聡子・赤荻浩之 ・神戸久美子・芦田良衣・山崎敏子・渡邊慶・三中西純・奥本富美子・新嶋一隆・新井英靖
性同一性障害に対する養護教諭の認識と支援について	廣原紀恵・富岡詩織
養護教諭養課程の大学生の養護教諭志望に対する意識調査	飛田昭子・廣原紀恵
高等学校における保健学習の現状と課題	青柳直子
iPS 細胞を用いた再生医療社会実現に向けた思考基盤づくりの提案	石原研治・小原由子
再生医療と iPS 細胞について理解するための教育学部的な教材の開発	石原研治・吉田香菜
横書き書字指導に関する研究 ――指導の実態とその課題――	齋木久美・来栖愛美
創作紙芝居アーカイブサイトの運用 ――第 1 報サイトの構築について――	林延哉
図鑑写真のタイプとサイズに関する比較研究 ――植物図鑑における同定用写真の要件――	齋木健一・林延哉・中西史
タブレット端末を利用した 21 世紀型コミュニケーション力育成のための体験型研修教材の開発	小林祐紀・村井万寿夫・佐藤幸江・中川一史・渡辺浩美
小学校複式学級での環境・防災教育に関する授業実践の一例 ――鹿児島県瀬戸内町立嘉鉄小学校における教育ボランティア体験にもとづいて――	野澤春菜・伊藤孝・小松隆一
富士山をフィールドとした多面的学習プログラムの実践-1 ――地学と美術編――	伊藤孝・上栗伸一・片口直樹・大辻永・橋浦洋志
グループ・アプローチエクササイズの種類に関する一考察 ――構成的グループ・エンカウンター、グループワーク・トレーニング、インプロを比較して――	正保春彦
新しい中学生用いじめスクリーニング尺度開発 ――予備調査による妥当性検証――	柳田美智子・金丸隆太
知識・技能と課題の明確化を図る家庭科のガイダンスの提案 ――小・中学校のつながりに着目して――	高崎昌己・佐藤裕紀子
運動が苦手なダウン症児への体育の授業づくり ――投能力の向上を目指して――	椎名幸由紀・高草木博・滑川昭・勝二博亮